

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。
- ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。
- ・福祉政策の課題について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

取組

- 1 福祉制度の概念と理念
- 2 福祉制度の概念と理念
- 3 福祉制度と福祉政策の関係
- 4 福祉政策と政治の関係
- 5 福祉政策の主体と対象
- 6 福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
- 7 前近代社会と福祉 (救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他)
- 8 近代社会と福祉 (第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他)
- 9 現代社会と福祉 (新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他)
- 10 需要とニーズの概念 (需要の定義、ニーズの定義、その他)
- 11 資源の定義 (資源の定義、その他)
- 12 福祉政策と社会問題 (貧困、孤独、失業、要援護〔児童・高齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他)
- 13 社会政策の現代的課題 (社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他)
- 14 福祉政策の課題と国際比較 (国際動向を含む)
- 15 授業の総まとめ (ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

- ・塩野敬祐・福田幸夫編『現代社会と福祉 - 社会福祉 福祉政策』弘文堂
- ・『福祉小六法 2010』みらい社

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む) の関係について理解 する。
- ・福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む) の関係について理解する。
- ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 福祉政策の論点 (効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択と パターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、福祉政策の視座等)
- 2 福祉政策の論点 (前回からの引き続き)
- 3 福祉政策における政府の役割
- 4 福祉政策における市場の役割
- 5 福祉政策における国民の役割
- 6 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
- 7 福祉供給部門 (政府部門、民間〔営利・非営利〕部門、ボランティア部門、インフォーマル部門 等)
- 8 福祉供給部門 (前回からの引き続き)
- 9 福祉供給過程 (公私関係、再配分、割当、行財政、計画、その他)
- 10 福祉利用過程 (スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ等)
- 11 福祉政策と教育政策
- 12 福祉政策と住宅政策
- 13 福祉政策と労働政策
- 14 福祉供給の政策過程と実施過程
- 15 授業の総まとめ (ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト] (使用予定)

- ・塩野敬祐・福田幸夫編 『現代社会と福祉 - 社会福祉 福祉政策』 弘文堂
- ・『福祉小六法 2010』 みらい社

科目名	養護原理		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 社会的養護される子どもの状況について理解する。
- 2 社会的養護の体系、児童福祉施設、及び里親について理解する。
- 3 児童福祉施設における養護の実際を理解する。
- 4 児童福祉施設の職員の役割などについて理解する。
- 5 児童観、施設及び里親養護観を養う。

内容

児童養護の概念

子どもの権利

養護原理

養育

保護

治療的援助

自立

児童養護施設等

里親養護

評価

レポート40点、試験60点とし、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

養護原理 児童の福祉を支える 坂本正路他 萌文書林

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	青木 孝志		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義について理解する。また、相談援助の概念と範囲及びその理念について理解する。

内容

- 1社会福祉士及び介護福祉士法の概要
- 2社会福祉士の役割と意義
- 3現代社会と地域生活
- 4ソーシャルワークの概念
- 5ソーシャルワークの構成要素
- 6ソーシャルワークの源流
- 7ソーシャルワークの基盤確立期
- 8ソーシャルワークの発展期
- 9ソーシャルワークの展開期
- 10ソーシャルワーカーと価値
- 11ソーシャルワーク実践と価値
- 12ソーシャルワーク実践と権利擁護
- 13クライアントの尊厳と自己決定
- 14ノーマライゼーションと社会的包括
- 15ソーシャルワークと社会福祉士

評価

ミニレポート40点、最終レポート若しくは試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉士養成講座編集委員会[相談援助の基盤と専門職](新・社会福祉士講座養成講座6)中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	青木 孝志		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職的機能の展開を理解するとともに、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。

内容

- 1総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景
- 2総合的かつ包括的な相談援助の基本的視座と機能
- 3総合的かつ包括的な相談援助の意義
- 4総合的かつ包括的な相談援助の基礎理論
- 5総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能の展開
- 6ソーシャルワークと価値
- 7ソーシャルワークの理念(自己決定、自立支援、エンパワーメント、ストレングス視点)
- 8ソーシャルワークの理念(ノーマライゼーション、社会的包摂)
- 9相談援助専門職の概念
- 10相談援助専門職の範囲
- 11専門職倫理の概念
- 12ソーシャルワーカーの倫理綱領の意義と内容
- 13日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範
- 14ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
- 15権利擁護と専門職倫理

評価

ミニレポート40点、最終レポート若しくは試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉士養成講座編集委員会[相談援助の基盤と専門職](新・社会福祉士講座養成講座6)中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 基本的コミュニケーションや、他者とのかわり方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解を深める。
2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について理解する。
3. 福祉専門職と、専門援助技術の関係について理解する。
4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解する。
5. 社会福祉援助活動における間接援助技術の体系について理解する。
6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

内容

1. 社会福祉援助技術の理論と動向 コミュニティソーシャルワーク機能の必要性と専門職の役割
2. 社会福祉専門職と社会福祉援助活動 コミュニティソーシャルワークとして求められる機能
3. 社会福祉専門職と社会福祉援助活動 ソーシャルワーカーの視点
4. 社会福祉援助技術の形成
5. 地域援助技術の意義・定義 地域援助技術の萌芽
6. 地域援助技術の意義・定義 COS、セツルメント運動
7. 地域援助技術の意義・定義 地域援助技術の基礎 レイン報告、インターグループワーク論
8. 地域援助技術の意義・定義 概念規定について
9. 地域援助技術の意義・定義 コミュニティワークとコミュニティオーガニゼーションについて
10. 地域援助技術の展開視点について 地域アセスメント
11. 地域援助技術の展開視点について 地域ニーズの把握
12. 地域援助技術の展開視点について 地域の組織化
13. 地域援助技術の展開視点について サービス資源の調整・開発
14. マッピング技法 - ジェノグラム、ファミリーマップ、エコマップ
15. 国家試験と同様のペーパーテスト

評価

ペーパーテスト (80点)、小テストあるいはレポート (20点) により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】福祉士養成講座編集委員会編集 『新版社会福祉士養成講座 社会福祉援助技術論 ・ 』

中央法規出版株式会社

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。また、相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。システム理論およびソーシャルワークの各種アプローチモデルを理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	人と環境の交互作用(一般システム理論、自己組織性、オートポエシス理論)
3	相談援助の対象
4	様々な実践モデルとアプローチ1 治療モデル
5	様々な実践モデルとアプローチ2 生活モデル
6	様々な実践モデルとアプローチ3 ストレングスモデル
7	様々な実践モデルとアプローチ4 心理社会的アプローチ
8	様々な実践モデルとアプローチ5 機能的アプローチ
9	様々な実践モデルとアプローチ6 問題解決アプローチ
10	様々な実践モデルとアプローチ7 課題中心アプローチ
11	様々な実践モデルとアプローチ8 危機介入アプローチ
12	様々な実践モデルとアプローチ9 行動変容アプローチ
13	様々な実践モデルとアプローチ10 エンパワメントアプローチ
14	家族療法とシステムズアプローチ
15	まとめ 試験

評価

ミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉士シリーズ 相談援助の理論と方法 』弘文堂

その他授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 福祉専門職と、専門援助技術の関係について理解する。
2. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解する。
3. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について理解する。
4. 社会福祉援助活動における間接援助技術の体系について理解する。

内容

1. 地域援助技術の理論と技術 地域援助技術の展開方法 準備段階から活動主体の組織化
2. 地域援助技術の理論と技術 地域援助技術の展開方法 活動計画作成から実践準備
3. 地域援助技術の理論と技術 地域援助技術の展開方法 実践から評価、次の展開へ
4. 地域援助技術と援助原則
5. 地域援助技術の具体的展開
6. 社会福祉調査法
7. 社会福祉調査法
8. 社会福祉計画の理論と技術
9. 社会福祉計画の理論と技術
10. 社会福祉の運営管理、社会活動法
11. ケアマネジメント、スーパービジョン等について
12. 住民による福祉活動の支援方法
13. 住民による福祉活動の支援方法
14. サービス開発の実際について
15. 国家試験と同様のペーパーテスト

評価

ペーパーテスト(80点)、小テストあるいはレポート(20点)により評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】福祉士養成講座編集委員会編集 『新版社会福祉士養成講座 社会福祉援助技術論 ・ 』
中央法規出版株式会社

科目名	公的扶助論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.生活保護制度の概要につき、その基本的内容を理解する。
- 2.低所得者対策の概要および関連施策につき、その基本的内容を理解する。
- 3.公的扶助と社会福祉援助活動につき、その基本的内容を理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 生活保護制度の目的と原理・原則
- 2 生活保護制度の目的と原理・原則
- 3 生活保護の種類
- 4 生活保護の種類
- 5 保護施設
- 6 最低生活費の概念
- 7 生活保護基準
- 8 保護の実施機関
- 9 生活保護の決定実施
- 10 生活保護に関する費用負担
- 11 被保護者の権利と義務
- 12 自立助長とケースワーク
- 13 自立支援プログラムによる支援活動の実際
- 14 自立支援プログラムによる支援活動の実際
- 15 授業の総まとめ(ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

- ・伊藤秀一編『低所得者に対する支援と生活保護制度 - 公的扶助』弘文堂

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.地域福祉の基本的考え方について理解する
- 2.地域福祉の主体と対象について理解する
- 3.地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
- 4.地域福祉におけるネットワークの意義と方法及びその実際について理解する。
- 5.地域福祉の推進方法について理解する。

内容

1	地域福祉とは
2	地域福祉の発展過程
3	新しい社会福祉システムとしての地域福祉
4	地域福祉の基本的な考え方1
5	地域福祉の基本的な考え方2
6	地域福祉の主体と福祉教育1
7	地域福祉の主体と福祉教育2
8	地域福祉計画について
9	社会福祉協議会について
10	行政組織と民間組織の役割と実際1
11	行政組織と民間組織の役割と実際2
12	専門職の役割と実際 - コミュニティソーシャルワークを中心に - 1
13	専門職の役割と実際 - コミュニティソーシャルワークを中心に - 2
14	専門職の役割と実際 - コミュニティソーシャルワークを中心に - 3
15	国家試験と同様のペーパー試験

評価

ペーパーテスト(80点)、小テストあるいはレポート(20点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 第9巻 地域福祉の理論と方法』 中央法規出版株式会社

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.地域福祉の基本的考え方について理解する
- 2.地域福祉の主体と対象について理解する
- 3.地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
- 4.地域福祉におけるネットワークの意義と方法及びその実際について理解する。
- 5.地域福祉の推進方法について理解する。

内容

1	住民の参加と方法1
2	住民の参加と方法2
3	住民の参加と方法3
4	ソーシャルサポートネットワークについて1
5	ソーシャルサポートネットワークについて2
6	地域における社会資源の活用・調整・開発1
7	地域における社会資源の活用・調整・開発2
8	地域における社会資源の活用・調整・開発3
9	地域における福祉ニーズの把握方法と実際1
10	地域における福祉ニーズの把握方法と実際2
11	地域トータルケアシステムの構築と実際1
12	地域トータルケアシステムの構築と実際2
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際
14	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方
15	国家試験と同様のペーパーテスト

評価

ペーパーテスト(80点)、小テストあるいはレポート(20点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 第9巻 地域福祉の理論と方法』中央法規出版株式会社

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

精神保健の意義、精神障害の基礎知識、精神保健福祉制度の概要について理解する。

生活の場及びライフサイクルにおける精神保健の役割について理解し、この中で保健福祉の視点や多様な支援の広がりについて理解する。

精神保健福祉の歴史的、社会的背景を学ぶ。とりわけ脱施設化、地域での当たり前の暮らしの実現に向けての支援課題を理解する。そのために、地域支援が展開されている場に出かけることを勧めている。

内容

精神保健福祉の意義

精神保健福祉とは何か

現代社会における精神保健福祉の重要性

精神的不健康の広がり

「自殺」を例に考える

予防・回復における精神保健福祉の役割

精神障害の基礎知識

代表的な疾病の概要 (統合失調症、中毒性精神 、気分障害、その他)

老年期の精神障害(認知症)

精神保健福祉政策を考える

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の変遷と概要

精神保健福祉の理念と実践(脱施設化と地域生活支援)

精神保健福祉士の役割と他職種との連携

当事者や家族による自助グループの活動

事例に見る精神障害者地域支援

新座市における福祉実践を考える

評価

平常点30点 試験70点、 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大熊由紀子等編著「精神保健福祉論」ミネルバ書房

【推薦書】野末浩之「こころ・からだ・くらし 精神障害者の理解と地域支援」萌文社

成清美治, 加納光子, 藤本豊、花澤佳代編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本」岩波書店

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	阿部 又一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 精神保健(メンタルヘルス)の意義について理解する
2. 精神障がいについての基礎的知識を得る
3. こころの健康について気づきを深める

内容

総論 精神保健の意義

1. オリエンテ - ション
2. 精神保健の理念
3. 精神医学とは、精神科の初診
4. ライフステージと精神保健
5. 生活の場と精神保健

各論 精神障がいの基礎知識

6. 統合失調症
7. 気分障害(うつ病、躁うつ病)
8. 認知症
9. 神経症性障害
10. 睡眠の役割、睡眠障害
11. 自殺予防
12. 地域精神保健福祉
13. 精神保健福祉制度
14. まとめ
15. 試験

*集中講義形式にあわせて行う予定である

評価

ペーパーテスト(40点)

出席(30点)

演習(30点)

60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】精神保健福祉士養成講座編集委員会編 『精神保健（新版介護福祉士養成講座10）』中央法規

*夏期集中講義のため、事前に別途テキスト等を指定する予定である

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 20年間進行している少子化社会における子育てのあり方の理解と支援について理解する。
- 子どもの権利を守る視点から子どもの成長、発達に係る課題を理解する。

内容

- 子ども家庭支援の実施体制について
- 子ども家庭福祉実践に係るソーシャルワーク
- 子ども家庭福祉に係る課題
 - 「非行」について
 - 「心身障害」について
 - 「情緒障害」について
- 社会的養護の状況と課題
 - 児童福祉施設
 - 里親制度

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 20年間進行している少子化社会における子育てのあり方の理解と支援について理解する。
- 子どもの権利を守る視点から子どもの成長、発達に係る課題を理解する。
- 上記1、2についての施策及びそれに係る施設、専門職について理解する。

内容

- 一人親家庭の状況と課題について
- 子ども家庭福祉支援に係る自治体の業務とソーシャルワーク
- 子ども家庭福祉に係る課題
 - (1) 保育所と幼稚園
 - (2) 社会的養護の実際と課題
 - (3) 被虐待児の権利擁護と成長発達の保障

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、NPOなど)について理解する。
- 2 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
- 3 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

内容

社会福祉法人

NPO法人、その他の法人

組織、経営に関する理論と実際

管理運営に関する理論と実際

集団力学、リーダーシップに関する理論と実際

労働環境の整備と人材確保

コンプライアンスとガバナンス

評価

レポート40点、筆記試験60点とし合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障の関係を含む)について理解する。
- ・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解する。
- ・社会保障制度の体系と概要について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

目次

- 1 人口動態の変化、少子高齢化
- 2 労働環境の変化(男女共同参画、ワークライフバランス等を含む)
- 3 社会保障の概念と範囲
- 4 社会保障の役割と意義
- 5 社会保障の理念
- 6 社会保障の対象
- 7 社会保障制度の発達(諸外国)
- 8 社会保障制度の発達(日本)
- 9 社会保障の財源
- 10 社会保障給付費
- 11 国民負担率
- 12 社会保険と社会扶助の関係
- 13 社会保険の概念と範囲
- 14 社会扶助の概念と範囲
- 15 授業全体の総まとめ(ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス』弘文堂

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・社会保障(社会保険)制度の体系について理解する。
- ・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。
- ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
- ・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数

- 1 社会保障(社会保険)制度の体系
- 2 年金保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 3 医療保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 4 介護保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 5 労災保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 6 雇用保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 7 社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 8 生活保護制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 9 家族手当制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 10 年金保険制度の具体的内容(国民年金、厚生年金、各種共済組合の年金)
- 11 医療保険制度の具体的内容(国民健康保険、健康保険、各種共済組合の医療保険)
- 12 公的施策と民間保険制度の現状(民間の年金保険・医療保険・介護保険等)
- 13 諸外国における社会保障制度の概要(北欧、西欧)
- 14 諸外国における社会保障制度の概要(アメリカ)
- 15 授業の総まとめ(ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス』弘文堂

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

次の事柄について個別指導及び集団指導を行う。

- 1 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
- 2 実習分野と施設、事業者等に関する理解
- 3 実習先で行われる介護や保育等の基本的な理解
- 4 現場体験学習及び見学実習
- 5 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- 6 プライバシー保護と守秘義務
- 7 実習記録ノートの記録内容及び記録方法に関する理解
- 8 実習生、担当教員、実習指導者との協議を経た実習計画の作成
- 9 巡回指導
- 10 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と総括レポートの作成
- 11 実習の評価全体総括会

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉実習研究会編「社会福祉実習サブノート」中央法規

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

次の事柄について個別指導及び集団指導を行う。

- 1 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
- 2 実習分野と施設、事業者等に関する理解
- 3 実習先で行われる介護や保育等の基本的な理解
- 4 現場体験学習及び見学実習
- 5 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- 6 プライバシー保護と守秘義務
- 7 実習記録ノートの記録内容及び記録方法に関する理解
- 8 実習生、担当教員、実習指導者との協議を経た実習計画の作成
- 9 巡回指導
- 10 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と総括レポートの作成
- 11 実習の評価全体総括会

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉実習研究会編「社会福祉実習サブノート」中央法規

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

次の事柄について個別指導及び集団指導を行う。

- 1 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
- 2 実習分野と施設、事業者等に関する理解
- 3 実習先で行われる介護や保育等の基本的な理解
- 4 現場体験学習及び見学実習
- 5 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- 6 プライバシー保護と守秘義務
- 7 実習記録ノートの記録内容及び記録方法に関する理解
- 8 実習生、担当教員、実習指導者との協議を経た実習計画の作成
- 9 巡回指導
- 10 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と総括レポートの作成
- 11 実習の評価全体総括会

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉実習研究会編「社会福祉実習サブノート」中央法規

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

次の事柄について個別指導及び集団指導を行う。

- 1 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
- 2 実習分野と施設、事業者等に関する理解
- 3 実習先で行われる介護や保育等の基本的な理解
- 4 現場体験学習及び見学実習
- 5 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- 6 プライバシー保護と守秘義務
- 7 実習記録ノートの記録内容及び記録方法に関する理解
- 8 実習生、担当教員、実習指導者との協議を経た実習計画の作成
- 9 巡回指導
- 10 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と総括レポートの作成
- 11 実習の評価全体総括会

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉実習研究会編「社会福祉実習サブノート」中央法規

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 社会福祉現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉に係る知識、技術を具体的、实际的に理解する。
- 3 社会福祉専門職としての資質、技能、倫理等について総合的対応能力を習得する。

内容

- 1 オリエンテーションにより実習概要、意義を理解する。
- 2 視聴覚学習、従事者の講義から実習先、利用者、専門職の立場、倫理等について事前に学習する。
- 3 実習中は巡回指導を行う。
- 4 実習後は事後指導とともに実習の評価全体総括会により実習の深化を図る。

評価

事前学習、実習評価、事後指導等総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

社会福祉実習サブノート」中央法規

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てるていくことができる能力を涵養する。

具体的な相談援助事例に即して権利擁護、自立支援について理解する。

内容

積極的な参加のもとに具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、社会的援助技術を理解しつつ基本的なコミュニケーション等を含めた援助技術が身に付くようにする。実技についてはロールプレイングを実施する。

評価

レポート40点、授業への参加状況と技術の習得状況60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「ワークブック 社会福祉援助技術演習4 グループワーク」 岩間伸之著 ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てるていくことができる能力を涵養する。

具体的な相談援助事例に即して権利擁護、自立支援について理解する。

内容

積極的な参加のもとに具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、社会的援助技術を理解しつつ基本的なコミュニケーション等を含めた援助技術が身に付くようにする。実技についてはロールプレイングを実施する

評価

レポート40点、授業への参加状況と技術の習得状況60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「ワークブック 社会福祉援助技術演習4 グループワーク」 岩間伸之著 ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てるていくことができる能力を涵養する。

具体的な相談援助事例に即して権利擁護、自立支援について理解する。

内容

積極的な参加のもとに具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、社会的援助技術を理解しつつ基本的なコミュニケーション等を含めた援助技術が身に付くようにする。実技についてはロールプレイングを実施する

評価

レポート40点、授業への参加状況と技術の習得状況60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「ワークブック 社会福祉援助技術演習4 グループワーク」 岩間伸之著 ミネルヴァ書房

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名	佐藤 陽、栗原 直樹、安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

地域社会における福祉課題の解決について、関係者だけではなく、福祉サービスを必要とする人が生活する地域社会のなかで、相互に支えあえるよう、フォーマル、インフォーマルシステムを活用し、また開発して、その解決を専門職だけでなく、住民主体に展開していかれるようにするコミュニティソーシャルワーク実践方法について、事例をもとに演習する。特に、人権尊重、権利擁護、自立支援に対する意識が深められるよう、利用者と支援者役割を理解した上で、グループワーク等で議論する機会を設ける。

内容

1. コミュニティソーシャルワーク実践の展開過程を理解させる。
2. 地域及び住民のニーズを知る 地域福祉の援助技術について
3. 地域及び住民のニーズを知る 地域とは何か
4. 地域及び住民のニーズを知る 地域を知る
5. 地域及び住民のニーズを知る 住民を知る
6. 地域及び住民のニーズを知る 地域住民のニーズを知る
7. 市民をエンパワーする視点と技法 市民参加の多様な形態、ワークショップとは
8. 市民をエンパワーする視点と技法 ボランティアグループ支援(ボランティアコーディネーション)
9. 市民をエンパワーする視点と技法 地域課題解決プログラム、福祉教育プログラム
10. 事例に基づく演習展開
11. 事例に基づく演習展開
12. 事例に基づく演習展開
13. 事例に基づく演習展開
14. 事例に基づく演習展開
15. まとめ レポートあるいは演習課題

評価

グループワーク(40点)、レポートや演習課題(60点)により評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】筒井のり子著 『ワークブック社会福祉援助技術演習5 コミュニティソーシャルワーク』
ミネルヴァ書房

*教科書を基本に演習をしますが、プリント等事例検討については必要な資料を適宜配布します。

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

地域社会における福祉課題の解決について、関係者だけではなく、福祉サービスを必要とする人が生活する地域社会のなかで、相互に支えあえるよう、フォーマル、インフォーマルシステムを活用し、また開発して、その解決を専門職だけでなく、住民主体に展開していかれるようにするコミュニティソーシャルワーク実践方法について、事例をもとに演習する。特に、人権尊重、権利擁護、自立支援に対する意識が深められるよう、利用者と支援者役割を理解した上で、グループワーク等で議論する機会を設ける。

内容

1. コミュニティソーシャルワーク実践の展開過程を理解させる。
2. 地域及び住民のニーズを知る 地域福祉の援助技術について
3. 地域及び住民のニーズを知る 地域とは何か
4. 地域及び住民のニーズを知る 地域を知る
5. 地域及び住民のニーズを知る 住民を知る
6. 地域及び住民のニーズを知る 地域住民のニーズを知る
7. 市民をエンパワーする視点と技法 市民参加の多様な形態、ワークショップとは
8. 市民をエンパワーする視点と技法 ボランティアグループ支援（ボランティアコーディネーション）
9. 市民をエンパワーする視点と技法 地域課題解決プログラム、福祉教育プログラム
10. 事例に基づく演習展開
11. 事例に基づく演習展開
12. 事例に基づく演習展開
13. 事例に基づく演習展開
14. 事例に基づく演習展開
15. まとめ レポートあるいは演習課題

評価

グループワーク（40点）、レポートや演習課題（60点）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】筒井のり子著 『ワークブック社会福祉援助技術演習5 コミュニティソーシャルワーク』

ミネルヴァ書房

*教科書を基本に演習をしますが、プリント等事例検討については必要な資料を適宜配布します。

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

地域社会における福祉課題の解決について、関係者だけではなく、福祉サービスを必要とする人が生活する地域社会のなかで、相互に支えあえるよう、フォーマル、インフォーマルシステムを活用し、また開発して、その解決を専門職だけでなく、住民主体に展開していかれるようにするコミュニティソーシャルワーク実践方法について、事例をもとに演習する。特に、人権尊重、権利擁護、自立支援に対する意識が深められるよう、利用者と支援者役割を理解した上で、グループワーク等で議論する機会を設ける。

内容

1. コミュニティソーシャルワーク実践の展開過程を理解させる。
2. 地域及び住民のニーズを知る 地域福祉の援助技術について
3. 地域及び住民のニーズを知る 地域とは何か
4. 地域及び住民のニーズを知る 地域を知る
5. 地域及び住民のニーズを知る 住民を知る
6. 地域及び住民のニーズを知る 地域住民のニーズを知る
7. 市民をエンパワーする視点と技法 市民参加の多様な形態、ワークショップとは
8. 市民をエンパワーする視点と技法 ボランティアグループ支援（ボランティアコーディネーション）
9. 市民をエンパワーする視点と技法 地域課題解決プログラム、福祉教育プログラム
10. 事例に基づく演習展開
11. 事例に基づく演習展開
12. 事例に基づく演習展開
13. 事例に基づく演習展開
14. 事例に基づく演習展開
15. まとめ レポートあるいは演習課題

評価

グループワーク（40点）、レポートや演習課題（60点）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】筒井のり子著 『ワークブック社会福祉援助技術演習5 コミュニティソーシャルワーク』

ミネルヴァ書房

*教科書を基本に演習をしますが、プリント等事例検討については必要な資料を適宜配布します。

科目名	福祉行政論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。
- ・福祉行財政の実際について理解する。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

取数

- 1 国の役割(法定受託事務と自治事務等)
- 2 都道府県の役割(福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督等)
- 3 市町村の役割(サービスの実施主体、介護保険制度における保険者等)
- 4 国と地方の関係(地方分権の推進)
- 5 福祉の財源(国・地方の財源、保険料財源、民間の財源等)
- 6 福祉行政の組織及び団体の役割(福祉事務所、児童相談所、婦人相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、地域包括支援センター等)
- 7 福祉行政における専門職の役割(福祉事務所の現業員、査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、その他)
- 8 福祉計画の意義と目的
- 9 福祉計画における住民参加の意義
- 10 福祉行財政と福祉計画の関係
- 11 福祉計画の主体
- 12 福祉計画の種類(地域福祉計画、老人保健福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、その他)
- 13 福祉計画の策定過程(問題分析と合意形成過程、その他)・策定方法・留意点・評価方法
- 14 福祉計画の実際
- 15 授業の総まとめ(ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

- ・池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画』弘文堂

科目名	福祉住環境演習		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

わが国の総人口は、2000年には約1億2千7百万人に達し、そのうちの約17%が65歳以上の高齢者である。今後急速に少子高齢化が進展することはよく知られるところであるが、少子高齢化社会の到来は、年金、雇用、医療、保険等、生活のあらゆる場面での多くの問題を抱えている。このような変革の時代に高齢者や障害者が地域社会で自立した生活を継続できるように社会全体で支援することが重要となることは疑う余地がない。高齢者や障害者が自立した生活をおくるために、その重要な課題のひとつに生活拠点としての住宅の問題がある。

本演習では、超高齢社会の到来を踏まえて、日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深めるものである。

但し、モデルの制作などを行うため、人数に制限あり。

内容

1. 高齢化社会と住環境整備
 2. 社会福祉と住環境整備の考え方
 3. 高齢者の心身の機能と特性
 4. 高齢者に対する諸関連施策とサービス
 5. 福祉住環境整備の進め方
 6. 福祉住環境整備の基礎知識
 7. 福祉住環境整備の基礎技術
 8. 福祉住環境整備の手法
 9. 関連専門職への理解と連携
- 等々

評価

出席30点、及び課題、随時のテスト等による評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】『福祉住環境コーディネーター検定試験(3級テキスト)』

その他、授業の中で適時参考文献を配布、紹介する。

科目名	衣生活支援演習		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるものは家政学である。そして、福祉を学ぶ学生にとって衣生活支援演習は不可欠な学問である。この演習では、生涯にわたっての快適な衣生活を営むために、衣生活について概観し、理解を深め充実させるとともに、支援することのできる知識と技術を養う。

内容

1	被服の役割と機能
2	既製衣料品のJISサイズ表示
3	被服素材の特徴と鑑別
4	被服管理実習
5	基礎実習
6	基礎実習
7	基礎実習
8	基礎実習
9	応用作品の製作
10	応用作品の製作
11	応用作品の製作
12	応用作品の製作
13	作品の仕上げと評価
14	高齢者・障害者のための被服のデザイン・構成・色彩
15	高齢者・障害者のための被服の着脱の工夫

評価

出席状況 50% 作品の提出 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する

科目名	食生活支援演習		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

高齢者や摂食機能に障害のある人にとって、食事は生命を維持するために必須であるだけでなく、おいしく食事を摂取することは人生の大きい楽しみである。さらに脳を活性に保つという機能もある。運動不測に陥りがちな障害者の肥満を防止し、良質な生活をを提供できるよう、食物の基礎知識と食介護の技術を習得する。

内容

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1.食事と健康 | 食事の意味 |
| 2.食品の科学 | 食物の条件 |
| 3.食品の科学 | 栄養素(糖質、脂質、タンパク質) |
| 4.食品の科学 | 栄養素(ビタミン、ミネラル、食物繊維) |
| 5.適正な食生活 | 肥満を防ぐ食事 |
| 6.適正な食生活 | 生活習慣病を予防する食事 |
| 7.献立の基本 | |
| 8.食べ難い食物の調理と工夫 | |
| 9.心身障害児の食介護 | 摂食機能障害の予防 |
| 10.心身障害児の食介護 | 食介護の方法 |
| 11.高齢者の食介護 | 高齢者の身体的特徴 |
| 12.高齢者の食介護 | 体調不良時の食事 |
| 13.高齢者の食介護 | 食介護の方法 |
| 14.食介護用品 | 食器と使用方法 |
| 15.食介護用品 | (同) |

評価

単元毎の4回のペーパー試験をおこなう

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

使用しない

科目名	福祉情報論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.社会調査の知識・技法にもとづいて、現代社会を深く理解することをねらいとする。
- 2.福祉の間接援助技術としての社会福祉調査の特徴を理解する。
- 3.社会調査の成果と限界を理解する。

内容

課題を設定し、その解決のアプローチとなる社会調査の企画・実施・結果の分析・報告等のシュミレーションを行う。

- 1.調査のねらいとテーマ設定
- 2.企画書の作成
- 3.調査票の作成および実施
- 4.調査結果の集計・分析
- 5.調査結果のとりまとめ
- 6.レポートの作成とプレゼンテーション

評価

受講態度(10点)、授業中の課題(30点)、レポート(60点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書：森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。

また近年注目されているスピリチュアリティの概念をはじめとした超越性とケアリングとの関連、及びケアリングと癒し（ヒーリング）の関連についても考察していく。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケア・ケアリング、ケアとキュア、ケアの語源
3	代表的なケアリング理論の概観：看護領域、教育領域、福祉領域
4	メイヤロフのケアリング論 1
5	メイヤロフのケアリング論 2
6	メイヤロフのケアリング論 3
7	メイヤロフのケアリング論 4
8	教育におけるケアリング論：佐藤学を中心に
9	教育におけるケアリング論：ジョン・ミラー吉田敦彦のホリスティック教育論を中心に
10	ケアリング尺度について：ノッティングスのケアリング能力尺度を中心に
11	ケアリングとヒーリング（癒し）：ターミナルケア（緩和ケア）を中心に
12	ケアリングとヒーリング（癒し）：ターミナルケア（緩和ケア）を中心に
13	ケアリングとスピリチュアリティ：ホリスティック理論との関連、WHOでの議論
14	ケアリングとスピリチュアリティ：トランスパーソナル理論との関連
15	まとめと授業評価

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ノッティングス『ケアリング - 倫理と道徳の教育 女性の観点から - 』晃洋書房

メイヤロフ『ケアの本質』ゆみる出版

モンゴメリー『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院

佐藤学『学びと死と再生』太郎次郎社

吉田敦彦『ホリスティック教育論』日本評論社

谷山洋三『仏教とスピリチュアルケア』東方出版

科目名	福祉情報演習		
担当教員名	大山 博幸、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業では、社会福祉調査、卒業研究等で必要となる情報リテラシー及び調査法の習得を目的とする。主に質問紙調査の作成方法及び結果の集計で用いる統計ソフト(Excel)の活用を、演習形式で学習していく。

内容

1	オリエンテーション エクセル基礎
2	社会福祉調査の基礎
3	図書館データベース検索ガイダンス
4	文献資料調査法入門
5	質問紙調査の基礎
6	グループワーク：模擬調査票の作成
7	グループワーク：模擬調査票の作成
8	グループワーク：模擬調査票の作成
9	統計基礎：尺度水準、記述統計
10	統計基礎：分散、標準偏差、標準得点
11	統計基礎：エクセルを使った集計、グラフ化
12	統計基礎：相関係数
13	統計基礎：クロス集計、カイ2乗検定
14	調査結果報告
15	調査結果報告

評価

授業中提示した課題40点、最終レポート課題60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

小野寺孝義・菱村豊『文科系学生のための新統計学』ナカニシヤ出版 2005

他は授業中に指示する。

科目名	死生学		
担当教員名	小田桐 正毅		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「生死」と「死生」はどのように異なるのか。また、「死生学」は「福祉」と何故関連するのか。さらには、「死生学」は「ライフやからだ」と何故関連するのか。本講義は、上記三点に集約される諸問題を見つめて、「日常生活における死生学」とはどのようなものであるのかを多角的に明らかにすることに焦点がある。将来、保健・医療・看護・福祉・介護の領域で仕事をしたいと考えている人、さらには多様な人間関係をよく考えてみたいと思っている人の基礎的な学習になって欲しいと願っている。

内容

- (1) 本講義の視座と目的
- (2) 「人生観」「生死観」「死生観」
- (3) 「生と死」に対する多様な見解
- (4) 「ライフ・生命活動」と「死生学」
- (5) 「生と死の四つの態様」と「死生学」
- (6) 「からだ」と「死生学」
- (7) 「健康・病気・障害」と「死生学」
- (8) 「保健・医療・看護・福祉・介護」と「死生学」
- (9) 「人間関係」と「死生学」
- (10) 「ライフ・チャンス」と「死生学」

評価

レポート(最終講義日に提出、課題は提出日の一ヶ月前に公表)。

評価点配分は出席40点、ペーパー60点。ペーパーについては、(1)講義内容を踏まえること、(2)順序立てて論じること、(3)自分の見解/考えを明記することが基準で、(3)が60%を占める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配付する。

【推薦書】毎回の講義で適宜指示する。

【参考図書】毎回の講義で適宜指示する。

科目名	国際福祉論		
担当教員名	岡田 徹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

<授業目標>

社会福祉はこれまで国家・国民社会を前提にして生成展開されてきた。ここでは、この前提をいったん取り外し、「地球の見地に立った人間福祉」を考える。

<科目の概要>

地球世紀(Global century)と呼ばれる21世紀を生きる私たちにとって重要なキーワードはこの科目にある「福祉」と「国際化」である。ここでは社会福祉の中で最も創発的な領域である国際福祉の理論と実践を取り上げる。先進国型の「福祉」と途上国型の「開発」を包摂する概念として「人間福祉」を提起する。

内容

授業の進め方：毎回、講義レジュメを配布する。映像教材を用いる。毎授業時に小レポートを課す。

年間計画

1. なぜ今「国際福祉」か(意義)
2. 国際福祉とは何か(定義)
3. 国際福祉の生成展開過程(歴史)
4. 国際福祉問題1(難民問題)
5. 同上2(HIV・エイズ問題)
6. 同上3(在日外国人問題)
7. 同上4(南北問題)
8. 同上5(バングラデシュの貧困問題)
9. 国際福祉の存立根拠(脱主権国家化、人間福祉グローバル・ミニマム、地球市民社会)
10. 国際福祉の理論課題1(開発と福祉の包摂)
11. 国際福祉の理論課題2(開発とSWの統合)
12. 国際福祉の実践課題1(バングラデシュの農村および都市開発)
13. 国際福祉の実践課題2(フランスの家族政策)
14. 国際福祉論から見えてくる日本社会のかたち
15. 試験

評価

ペーパーテスト(40点)、毎授業時のリアクション・レポート(30点)、出席(30点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】岡田徹他編 『コミュニティ福祉学入門』 有斐閣 2005年 2300円+税

【参考図書】仲村優一編 『国際社会福祉』第12巻

岡田徹著 『国際社会福祉の歴史的動向』

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、障がいを持つ人々が能力を発揮できる状態にし、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復ばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復も図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。

内容

1	リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの目的と対象
3	リハビリテーションの組織
4	障がいの受容過程とQOL
5	ライフサイクルとリハビリテーション
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション 心身障がい児の基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 広汎性発達障害と学習障害
10	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	施設におけるリハビリテーション
14	地域におけるリハビリテーション
15	試験

評価

授業への参加状況（10点）、レポート（20点）、筆記試験（70点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには 』 中央法規 492.9/R

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

リハビリテーションに対するイメージは、それまでの経験によって人それぞれ異なり、一面的に捉えていることが多い。本来、リハビリテーションとは「全人的復権」を意味する。単に身体機能の訓練をすることにとどまらない。リハビリテーションは、その人らしい生活の再構築とも言え、福祉専門職の果たす役割は非常に大きい。この授業ではリハビリテーションについて広く理解し、様々な職種と連携し共にチームアプローチが展開できるための基盤を身に着けることをめざす。

内容

1. オリエンテーション
2. リハビリテーションの考え方
3. リハビリテーションと介護
4. リハビリテーションにおけるチームアプローチ
5. ICFとは
6. 共通言語としてのICFの活用
7. 様々な場におけるリハビリテーション(1)
8. 様々な場におけるリハビリテーション(2)
9. 様々な場におけるリハビリテーション(3)
10. 様々な場におけるリハビリテーション(4)
11. 様々な場におけるリハビリテーション(5)
12. 様々な場におけるリハビリテーション(6)
13. 事例検討・発表
14. まとめ
15. 試験

評価

出席20点、レポート30点、期末テスト50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

【推薦書】西本典良著 『動作を見る介護：リハビリテーションの応用で介護力を高める』 誠信書房

野尻晋一著 『リハビリテーションからみた介護技術』 中央法規 369.26/N

ペヤ・ハルヴォール・ルンデ著 『移動・移乗の知識と技術 援助者の腰痛予防と患者の活動性の向上を目指して』 中央法規 492.9/L

科目名	ジェンダーと福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

少子高齢社会、人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差（ジェンダー）が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

内容

1	男女共同参画に関する政策と社会保障・社会福祉
2	社会福祉に関する政策・制度の変化とその影響
3	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
4	児童の環境と出産・育児支援
5	母子・父子家庭の抱える問題
6	高齢者の自立と介護問題
7	障害者（児）の自立支援に関する問題
8	新たな貧困問題とホームレス
9	在日外国人の生活問題
10	売買春・セクハラ・DVの解決
11	福祉の仕事と教育
12	ボランティア・市民活動・NPOの役割
13	福祉を創りだした女性たち
14	男女共同参画と福祉社会のビジョン - 私のライフプランニングを通じて
15	レポートの報告と講評

評価

出席および意見の発表・討議への参加態度（20点）、期末レポート（80点）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

推薦書：春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

杉本貴代栄『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書 369/S

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者を取り残されてしまう、デジタルデバインドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。そこで、本科目では、マウスやキーボードの使い方などについて、わかりやすく説明するマニュアルを作成したい。

コンピュータを使う人間に重きを置き、コンピュータを使う人間にとってわかりやすい表現をするためには、まず人間特に心理過程について知らなければならない。そこで、人間の心理過程とコンピュータを徹底的に比較、考察したい。さらに、なぜ、コンピュータを使うことが難しいのか、考察したい。最後に、わかりやすく楽しい、具体的なマニュアルを作成したい。

内容

1.オリエンテーション

2.ヒューマンエラー

コンピュータを使っているときの人間のエラーについて、考察する。

3.わからないのは誰のせい？

わかりにくいとはどういうことか、考察する。コンピュータがわからないときに、ユーザが自分の責任にしがちである現状について、考察する。

4.メニュー、アイコン、専門用語

専門用語、アイコン、メニューのわかりにくさについて、考察する。

5.学習

コンピュータの学習過程において起こりがちな、停滞現象について考察する。

6.マニュアルの作成

マウスやキーボードの使い方をわかりやすく説明する方法について考察し、マニュアルを作成する。

7.まとめ

評価

毎回提出してもらうレポート、150点満点(15回X10点満点)で、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ボランティア論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

住み慣れた地域で安心して暮らせるようにするために、ボランティア活動は意義がある。それは、人間が共に豊かに生きていく市民社会の構築につながるものである。

本論は、社会福祉の視点からボランティアコーディネーションのあり方について学習し、自らがボランティアコーディネーターとして実践に臨む基本的な力を養うことをねらいとする。

内容

1	ボランティアについて
2	ボランティアをする、される - 関係性について
3	ボランタリズムの根底にあるもの
4	ボランティア活動の歴史的経緯と現状
5	ボランティア活動の役割について
6	ボランティア学習について
7	ボランティア活動プログラムについて1
8	ボランティア活動プログラムについて2
9	ボランティアセンター機能について1
10	ボランティアセンター機能について2
11	ボランティア活動実践から学ぶ
12	ボランティアコーディネーションについて1
13	ボランティアコーディネーションについて2
14	ボランティアコーディネーションについて3
15	ペーパー試験

評価

ペーパーテスト(80点)、小テストあるいはレポート(20点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

講義においてプリントを配布。推薦図書等については初回講義時に紹介。

科目名	レクリエーション論		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

レクリエーションの中で行われるさまざまな遊びや活動、それによってもたらされる「楽しさ」は、人々の成長や生きがい、人と人のつながりなど、とても多くのものを創り出します。また、レクリエーションを意図的に活用することで、人々はいきいきと生きがいを感じながら生きることができます。

今、レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉・子育て支援・保育・教育・地域づくり・環境教育など幅広い領域で取り入れられています。そうした中、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の重要性を理解し、身近な人びとを支援する活動・事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技術や援助法など、実践を取り入れながら学んでいきます。

内容

1. レクリエーションの基礎理論

- (1) レクリエーションの意義 レクリエーションとは何か・・・
- (2) レクリエーション運動の歴史とその背景
- (3) レクリエーション制度

2. レクリエーション支援論

- (1) ライフスタイルとレクリエーションの意義
- (2) 少子化の課題とレクリエーション
- (3) 地域とレクリエーション

3. レクリエーション事業論

- (1) レクリエーション事業の考え方
- (2) レクリエーション事業の展開方法
- (3) プログラムの組み立て方

4. コミュニケーション・ワーク

- (1) レクリエーションにおけるホスピタリティ
- (2) 非言語コミュニケーション
- (3) アイスブレイキングの意義

5. レクリエーション・ワークの重要性

- (1) 目的や対象に合わせたレクリエーション・ワーク
- (2) 素材・アクティビティの選択

評価

出席、学習態度(40)点 ペーパーテスト(60)点、他、ふりかえりシートにより評価 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しません

【推薦書】レクリエーション活動援助法 新版第3版 福祉士養成講座編集委員会〔編〕中央法規出版
ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティ・トレーニング研究会編著 遊戯社

【参考図書】レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

科目名	地域と生活		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

生活の基本単位である家族・世帯を主体とする私的生活領域から、公領域、企業領域、民間非営利領域が展開する場としての地域社会を考える。今年度は、特に地域自治組織に重点をおいて講義をすすめたい。さらに日常生活における共同・協同関係をつくること、コミュニティ形成や地域活性化につながることの現代的意味を学ぶ。活動事例の検討においては、学生自身が身近な地域への理解と関心を深めることをめざす。

内容

1	現代社会におけるコミュニティ
2	コミュニティをめぐる論議
3	家族・世帯と地域
4	生活領域とその主体
5	地域社会の構成員としての各種団体
6	伝統的コミュニティの特徴
7	現代のコミュニティの特徴
8	地域自治組織の多面性と現状
9	地域自治組織の事例検討
10	地域自治組織の事例検討
11	コミュニティをめぐる新たな動き - エコマネー
12	コミュニティをめぐる新たな動き - コミュニティビジネス
13	コミュニティをめぐる新たな動き - ふるさと資源とソーシャルキャピタル
14	地域活性化とコミュニティ
15	レポート報告と講評

評価

出席と事例発表等の受講態度(20点)、期末のレポート(80点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 加藤利春 『エコマネーはマネーを駆逐する』 勁草書房 2002 337/K

細内信孝 『みんなが主役のコミュニティビジネス』 ぎょうせい 2006 335.8/H

林良博・高橋弘・生現寺眞一 『ふるさと資源の再発見』 家の光協会 2005 611.1/H

科目名	人間福祉特論 A		
担当教員名	宮城 道子、齊川 富夫、佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次までの学びの成果にもとづき、概念や専門用語等の整理とともに、社会福祉の体系的理解を深める。また、最新の社会福祉の動向や法改正、その背景となる社会環境の変化を的確に把握できるよう、認識力の形成に努める。社会福祉士国家試験を一つの目標として福祉専門職に求められる資質を得ることをめざす。

内容

- 1.福祉専門職と資格制度
- 2.社会福祉の概念・理論・専門用語の体系的理解
- 3.社会福祉の各領域ごとの法制度改正およびその適用の現状
- 4.政治・経済・社会環境の変化による新たな生活問題
- 5.社会福祉士国家試験受験に資する学習方法の獲得

評価

受講態度および授業中に実施されるミニテスト・小課題(50点)、最終レポート(50点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書は適宜紹介する。適宜プリントを配布する。

科目名	人間福祉特論 B		
担当教員名	宮城 道子、齊川 富夫、佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期の「人間福祉特論 A」をさらに展開し、概念や専門用語等の整理とともに関連領域へも視野をひろげて、社会福祉の全般的理解をさらに深める。また、最新の社会福祉の動向や法改正、その背景となる社会環境の変化を的確に把握できるように、認識力の形成に努める。これからの社会を担う福祉専門職としての意欲・知識・資質を確かなものとする。

内容

- 1.福祉専門職と資格制度、各専門職との連携
- 2.社会福祉関連領域の概念・理論・専門用語の体系的理解
- 3.社会福祉関連領域の法制度改正およびその適用の現状
- 4.政治・経済・社会環境の変化による新たな課題とアプローチ
- 5.福祉専門職としての自己啓発

評価

受講態度および授業中に実施されるミニテスト・小課題(50点)、最終レポート(50点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書は適宜紹介する。適宜プリントを配布する。

科目名	福祉コミュニケーション		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- (1) コミュニケーションの多様なあり方について学ぶ。
- (2) 理性的・論理的になれることと共感能力(共感できる心)とが、共に大切なことを学ぶ。
- (3) 芸術表現についての研究に学びながら、人間・存在の深味について考えてみる。

内容

1	授業の概要
2	コミュニケーションの歴史
3	話し言葉のコミュニケーションと文字のコミュニケーション
4	印刷術の発明ー文字の広がり
5	近代社会とマスコミの形成
6	現代社会とマスコミの問題
7	文字の広がりとは知性優位のコミュニケーション
8	知性優位の時代ー視覚中心の時代
9	視覚と触覚ー欧米と日本の比較
10	日本人の国民性ー日本的コミュニケーション
11	共感的コミュニケーション
12	理性的コミュニケーション
13	コミュニケーションと葛藤
14	共生のためのコミュニケーション
15	福祉とコミュニケーション

評価

- ・ペーパーテストと出席によって評価する。
- ・テストの成績で65%、出席点に35% 配点する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	乳幼児・児童の心理学		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

乳幼児期は人生の基礎ができる大事な時期である。この時期の急速な変化が示す「人になっていく」過程は、私たちに人間の面白さを充分味わわせてくれる。このような発達のいくつかの側面について学び、乳幼児期が人の一生のなかでどんな意味をもつかを共に考えたい。またこの授業を子どもに対する理解や臨床活動のための基礎知識として役立ててほしい。

内容

できるだけ図、資料、映像を用いて、わかりやすい授業をしたい。

1. 乳幼児期の人生における意味
2. 新生児の能力
3. 身体と運動の発達
4. 個性の発生
- 5-6. 愛着と親子関係
7. 他者との関係の発達
- 8-9. 「自己」への気づき
- 10-11. 情緒と感情の発達
12. 言語とコミュニケーションの発達
13. 遊びと想像性
14. 年齢別のまとめ
15. 試験

評価

期末試験(50点)、授業時のレポート(30点)および授業時の積極的な討論参加(20点)。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

【推薦書】柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房 2005

岡本夏木「子どもとことば」岩波新書

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	田畑 光司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

臨床心理学、発達心理学、学習心理学の立場から、障害のある人の知能、言語、認知、情緒、社会性、行動などの特性を理解することを目的とする。障害は、その人と家族にとっては、生涯にわたり影響をおよぼすものであるから、ライフサイクルの視点から見てゆく。

障害の定義・原因・診断法(早期)を学習した上で、さまざまな障害における心理学的特性を学習する。さらに障害のある子どもや大人に心理検査を実施する場合の基本について学習する。また障害に起因するさまざまな問題行動のメカニズムや対応についても学ぶ。発達障害にとどまらず、精神障害や難病、中途障害など広汎に取り上げてゆく予定である。臨床例の紹介や映像資料の提供もしたい。

内容

1	はじめに 障害児・者の心理学とは 障害の定義
2	視覚障害の心理と特性
3	聴覚障害の心理と特性
4	知的障害の心理と特性
5	運動障害の心理と特性
6	病弱・難病の心理と特性
7	言語障害の心理と特性
8	精神障害の心理と特性
9	重複障害の心理と特性
10	中途障害の心理と特性
11	知能検査と障害児・者
12	発達検査と障害児・者
13	性格検査と障害児・者
14	まとめ
15	テスト

評価

授業への出席状況を15点、学期末の試験を85点として60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じて参考図書を紹介する。

科目名	カウンセリング論		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

カウンセリングについて、初回面接から終結にいたるまでを、初心者にわかりやすいように解説していく。また、カウンセリングに必要とされる基本的知識、技法、倫理などについて学んでいく。

内容

1. はじめに
2. カウンセリングとは
3. カウンセリングの方法原則(1)
4. カウンセリングの方法原則(2)
5. カウンセリングのすすめ方(1)
6. カウンセリングのすすめ方(2)
7. ラポールと共感的理解の図り方
8. 来談者理解の深化の方法(1)
9. 来談者理解の深化の方法(2)
10. 来談者理解の深化の方法(3)
11. 働きかけの技術
12. 主要なカウンセリング技法の概要(1)
13. 主要なカウンセリング技法の概要(2)
14. 主要なカウンセリング技法の概要(3)
15. カウンセラーになるための心得と訓練について

評価

平常点30点、期末テスト70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

江川? 成編 カウンセリング入門 北樹出版 2009

科目名	中高年の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点から見た場合に少数派であることであったりと多様である。

本科目は、このような前提にたち、1) 高齢期に特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか? 2) そのような不利益を被りながら生活する高齢者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか? 3) 社会的な不利益を被りがちな高齢者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか? の3点について学習することを目的とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「高齢者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、授業展開の詳細は、講義回別に以下の通りとする。

第1回 ガイダンス：講義の進め方と成績評価方法

第2回 「幼児虐待・児童虐待と自分」：幼児虐待の現実を加害者の側から観てみると?

第3回 「幼少期の発病と支え合う想い」：小児病棟での子ども同士のかかわりあいの意味は?

第4回 「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実とは?

第5回 「優性思想と自分」：ハンセン病回復者に対する断種手術の現実とは?

第6回 「パートナーシップと自分」：パートナーとはどのような生きる意味を創造するのか?

第7回 「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差とは?

第8回 「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常とは?

第9回 「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆きとは?

第10回 「里親制度と血縁の意味と自分」：血縁があると自動的に血縁対象を愛するのか?

第11回 「女性に対する差別とジェンダーと自分」：インドにおける「結婚持参金殺人」とは?

第12回 「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実とは?

第13回 「代理出産ビジネスの現実と新たな生命を誕生させることの意味」子宮貸しビジネスとは?

第14回 「戦争と自分」：現代世界の紛争・内戦・戦争の実質的な担い手の「少年兵」とは?

第15回 「暴力の連鎖と一人の市民としての自分」(講義のまとめと小論文の作成)

評価

成績は、合計100点満点を、『出席』が28点、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が42点、『期末レポート』が30点の構成にて配点し、それを基準に評価する。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には欠席とし、評価の対象としない。

平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、題材として提供した内容に関する『真摯な向き合いの態度』を表現した結果としての『小レポート』により評価する。レポートとは、講義最終回にその場で作成・提出を求める小論文を指す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しない。

科目名	家族心理学		
担当教員名	齊藤 千鶴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

家族にまつわる心理学を発達の観点あるいは家族システムの観点から学ぶことを目的としています。発達の観点では、家族の成り立つ前の青年期の恋愛過程から結婚を契機とした夫婦の成立過程、そして子どもの出生と同時に親役割の誕生、さらに高齢期の家族までを学びます。家族システムの観点では、家族システム理論について講義した後、その理論を基にした心理臨床実践、すなわち家族療法についても簡単にふれる予定です。

内容

- 1家族とは
- 2健康な家族と家族機能
- 3健康な家族と家族機能
- 4家族作りの準備
- 5家族作りの準備
- 6夫婦の発達とは
- 7夫婦の発達とは
- 8親子の発達とは
- 9親子の発達とは
- 10システムとしての家族 ~ 家族システム理論
- 11システムとしての家族 ~ 家族システム理論
- 12家族とパーソナリティ ~ 家族関係がパーソナリティへ及ぼす影響
- 13家族とパーソナリティ ~ 家族関係がパーソナリティへ及ぼす影響
- 14高齢者と家族 ~ 家族の終焉
- 15定期試験

評価

授業態度と授業への参加の程度と定期試験による総合評価で評価します

授業中のレポート課題 30% 出席20% 定期試験50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しません 推薦書は授業中に随時紹介します

科目名	演習		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	演習		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら、探求する。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して

研究テーマを見出し、焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む

その成果をもって4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行なう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通して、参考図書の紹介や資料の配布を行なう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における人間福祉の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導を得ながら探究し、その成果を各々の学生が卒業研究としてまとめる。

内容

グループ形式のゼミのあるいは個別の指導を通して、

研究テーマを見出し、焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践的活動に取り組む。

卒業研究としてまとめる。

評価

提出された卒業研究と日頃の学習活動、レポート等の内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	家政学概論		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるものは家政学である。家政学の定義は、次の通りである。「家政学は、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から、自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し、生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。」このことより、福祉を学ぶ学生にとって家政学は不可欠な学問である。家政学を概観し、身につけることにより、日常の生活を充実させていくための総合的な視点と思考力を養う。

内容

1	家族と家庭生活
2	生活設計
3	家事労働と介護労働
4	家庭経済
5	高齢者・障害者の経済生活
6	食生活と健康
7	栄養素の働きと消化吸収
8	食品の成分
9	高齢者・障害者の食生活
10	人間と被服
11	被服材料・管理
12	高齢者・障害者の被服生活
13	生活環境と環境問題
14	住まいの役割と機能および高齢者・障害者の住生活
15	まとめ

評価

試験および課題 60% 出席状況 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 編集代表 硯川真旬 「学びやすい家政学概論」 金芳堂

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉、介護需要 (高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。) について理解する。

高齢者福祉制度の発展過程について理解する。

相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

内容

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 (高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む)

高齢者福祉制度の発展過程

介護保険法

介護報酬

介護保険法における組織及び団体の役割と実際

介護保険法における専門職の役割と実際

介護保険法におけるネットワーキングと実際

地域包括支援センターの役割と実際

老人福祉法

高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律

高齢者の居住の安定確保に関する法律

評価

出席、レポートで30点、試験で70点とする。欠席が多い場合 (3回以上) は出席点を差し引く。

3分の1以上の出席をもって試験受験可とし、試験、レポート、出席を合計し評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護の概念や対象及びその理念等について理解する。

介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。

終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む) について理解する。

内容

介護の概念や対象

介護予防

介護過程

認知症ケア

終末期ケア

介護と住環境

評価

出席、レポートで30点、試験で70点とする。欠席が多い場合 (3回以上) は出席点を差し引く。

3分の1以上の出席をもって試験受験可とし、試験、レポート、出席を合計し評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規

科目名	障害者福祉論		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 障害のある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む)について理解する。
- 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
- 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

内容

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史(欧米編)
3	障害者福祉の歴史(日本編)
4	障害者福祉の基本理念
5	障害者福祉の基本理念
6	障害の概念と障害者の実態
7	障害者福祉の法体系
8	障害者自立支援法
9	障害者福祉サービス
10	障害者福祉サービスにおける給付の仕組み
11	障害者福祉サービス体系における課題
12	障害者の生活保障
13	障害者福祉にかかわる専門職
14	障害者の社会参加
15	まとめ・試験

評価

試験による評価(中間試験 15点、中間試験 15点、前期試験60点)

平常(授業態度等)評価 10点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】相澤譲治他『障害者福祉論』みらい

【推薦書】茨木尚子他『障害者総合福祉サービス法の展望』ミネルヴァ書房

小賀久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

小坂孫次『育ちつづける人達』中央法規

【参考書】坂本洋一『図説よくわかる障害者自立支援法』中央法規

科目名	就労支援サービス論		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。

就労支援にかかわる組織、団体および専門職について理解する。

就労支援分野との連携について理解する。

内容

1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者と就労支援
7	障害者と就労支援
8	障害者と就労支援
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者と就労支援
11	低所得者と就労支援
12	低所得者と就労支援
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援ネットワーク
15	まとめ・試験

評価

試験による評価(中間試験 15点、中間試験 15点、前期試験60点)

平常(授業態度等) 評価 10点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会『就労支援サービス』中央法規

【推薦書】山崎順子他『地域でささえる障害者の就労支援』中央法規

道中隆『生活保護と日本型ワーキングプア』ミネルヴァ書房

浜村彰『ベーシック労働法』有斐閣

科目名	医学一般		
担当教員名	高世 秀仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、急激に高齢化社会がすすみ、疾病構造の変化がおり、医療の政策、対策が変化している。高齢化社会では、福祉分野の充実が望まれるが、健康、病気、老化に関する医学知識は必須である。

本講座のねらいは、福祉・介護の現場に必要な医学の知識を学び、自分の健康について関心を持ち、よりよい対人援助ができる人材を育てることにある。

内容

1. 医学概論
2. 人体構造と機能
3. 代表的な疾患
4. 精神障害、精神保健
5. リハビリテーション医療
6. 公衆衛生の現状
7. 保健医療対策
8. 医事法制と保健・医療機関および専門職

評価

出席40点、ペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会 『人体の構造と機能及び疾病』 中央法規

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。
- ・福祉行財政の実際について理解する。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

取組

- 1 国の役割(法定受託事務と自治事務等)
- 2 都道府県の役割(福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督等)
- 3 市町村の役割(サービスの実施主体、介護保険制度における保険者等)
- 4 国と地方の関係(地方分権の推進)
- 5 福祉の財源(国・地方の財源、保険料財源、民間の財源等)
- 6 福祉行政の組織及び団体の役割(福祉事務所、児童相談所、婦人相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、地域包括支援センター等)
- 7 福祉行政における専門職の役割(福祉事務所の現業員、査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、その他)
- 8 福祉計画の意義と目的
- 9 福祉計画における住民参加の意義
- 10 福祉行財政と福祉計画の関係
- 11 福祉計画の主体
- 12 福祉計画の種類(地域福祉計画、老人保健福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、その他)
- 13 福祉計画の策定過程(問題分析と合意形成過程、その他)・策定方法・留意点・評価方法
- 14 福祉計画の実際
- 15 授業の総まとめ(ペーパー試験を含む)

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

- ・池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画』弘文堂

科目名	社会理論と社会システム		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 社会をシステムとして捉える考え方を理解する。
- 特に、家族と地域についての理解を深める。
- 近代化の意味とその問題性についての理解に努める。
- 社会問題を社会的に捉える考え方を理解する。

内容

1	社会システムとは・・・
2	経済と社会システム
3	市場の問題と福祉国家
4	地域と集団
5	都市化と地域
6	家族の社会学 ー 家族の形態と機能
7	家族の社会学 ー 家族の変容
8	生活の理解
9	女性の生き方とキャリア形成
10	近代化と社会変動
11	高度産業化ー情報化と情報社会
12	近代化と合理化ーM・ウェーバーの社会学
13	システムと社会秩序
14	社会問題の理解
15	まとめ

評価

- ・ペーパーテストと出席によって評価する。
- ・テストに65%、出席点として35% 配点する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	家政学概論		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるものは家政学である。家政学の定義は、次の通りである。「家政学は、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から、自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し、生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。」このことより、福祉を学ぶ学生にとって家政学は不可欠な学問である。家政学を概観し、身につけることにより、日常の生活を充実させていくための総合的な視点と思考力を養う。

内容

1	家族と家庭生活
2	生活設計
3	家事労働と介護労働
4	家庭経済
5	高齢者・障害者の経済生活
6	食生活と健康
7	栄養素の働きと消化吸収
8	食品の成分
9	高齢者・障害者の食生活
10	人間と被服
11	被服材料・管理
12	高齢者・障害者の被服生活
13	生活環境と環境問題
14	住まいの役割と機能および高齢者・障害者の住生活
15	まとめ

評価

試験および課題 60% 出席状況 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】編集代表 硯川真旬 「学びやすい家政学概論」 金芳堂

科目名	福祉住環境論		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

わが国の総人口は、2000年には約1億2千7百万人に達し、そのうちの約17%が65歳以上の高齢者である。今後、急速に少子高齢化が進展することはよく知られるところであるが、少子高齢化社会の到来は、年金、雇用、医療、保険等、生活のあらゆる場面での多くの問題を抱えている。

このような変革の時代に高齢者や障害者が地域社会で自立した生活を継続できるように社会全体で支援することが重要となり、高齢者や障害者が自立した生活をおくるために、その重要な課題のひとつに生活拠点としての住宅の問題がある。

本演習では、超高齢社会の到来を踏まえて、日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深めるものである。

但し、モデルの制作などを行うため、人数に制限あり。

内容

1. 高齢化社会と住環境整備
 2. 社会福祉と住環境整備の考え方
 3. 高齢者の心身の機能と特性
 4. 高齢者に対する諸関連施策とサービス
 5. 福祉住環境整備の進め方
 6. 福祉住環境整備の基礎知識
 7. 福祉住環境整備の基礎技術
 8. 福祉住環境整備の手法
 9. 関連専門職への理解と連携
- 等々

評価

出席30点、及び課題、随時のレポート等による評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】『福祉住環境コーディネーター検定試験（3級テキスト）』

その他、授業の中で適時参考文献を配布、紹介する。

科目名	レクリエーション援助法		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

レクリエーションの中で行われるさまざまな遊びや活動、それによってもたらされる「楽しさ」は、人々の成長や生きがい、人と人のつながりなど、とても多くのものを創り出します。また、レクリエーションを意図的に活用することで、人々はいきいきと生きがいを感じながら生きることができます。

今、レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉・子育て支援・保育・教育・地域づくり・環境教育など幅広い領域で取り入れられています。そうした中、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の重要性を理解し、身近な人びとを支援する活動・事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技術や援助法など、実践を取り入れながら学んでいきます。

内容

1. レクリエーションの基礎理論

- (1) レクリエーションの意義 レクリエーションとは何か・・・
- (2) レクリエーション運動の歴史とその背景
- (3) レクリエーション制度

2. レクリエーション支援論

- (1) ライフスタイルとレクリエーションの意義
- (2) 少子化の課題とレクリエーション
- (3) 地域とレクリエーション

3. レクリエーション事業論

- (1) レクリエーション事業の考え方
- (2) レクリエーション事業の展開方法
- (3) プログラムの組み立て方

4. コミュニケーション・ワーク

- (1) レクリエーションにおけるホスピタリティ
- (2) 非言語コミュニケーション
- (3) アイスブレイキングの意義

5. レクリエーション・ワークの重要性

- (1) 目的や対象に合わせたレクリエーション・ワーク
- (2) 素材・アクティビティの選択

評価

出席、学習態度(40)点 ペーパーテスト(60)点、他、ふりかえりシートにより評価 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に使用しません

【推薦書】レクリエーション活動援助法 新版第3版 福祉士養成講座編集委員会〔編〕中央法規出版

ホスピタ

リティをみかく本 ホスピタリティ・トレーニング研究会編著 遊戯社

【参考図書】レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.現代社会における多様な社会福祉制度の諸原理や基礎概念を、その背後にある価値の問題とともに把握し、社会福祉が現代社会に存在する意味を考える。
- 2.社会福祉に関して欧米及び日本の歴史について理解するとともに、社会福祉の理念と意義について理解する。
- 3.社会福祉の法体系及び実施体制を理解するとともに、福祉需要の動向について理解する。
- 4.適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

内容

1	生活と社会福祉	日々の生活と社会福祉のあり方について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：イギリス	社会福祉の発祥について
4	社会福祉の歴史：アメリカ	アメリカにおける発展について
5	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代、近代の状況について
6	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 3	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 4	日本における現代の課題について
9	ソーシャルワーク	ソーシャルワークの実際について
10	公的責任と行財政	社会福祉の実施責任と費用の関係について
11	社会福祉の実施体制	地方自治体の実施体制について
12	ジェンダーと社会福祉	男女間格差の状況について
13	社会福祉サービスと従事者	実際の現場で働く専門職の状況について
14	全体の振り返り	
15	試験	

評価

筆記試験(60点)レポート(40点)とし、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 社会福祉の原理と思想 有斐閣

【推薦書】 厚生労働白書

【参考図書】 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房

科目名	女性と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

少子高齢社会、人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差（ジェンダー）が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

内容

1	男女共同参画に関する政策と社会保障・社会福祉
2	社会福祉に関する政策・制度の変化とその影響
3	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
4	児童の環境と出産・育児支援
5	母子・父子家庭の抱える問題
6	高齢者の自立と介護問題
7	障害者（児）の自立支援に関する問題
8	新たな貧困問題とホームレス
9	在日外国人の生活問題
10	売買春・セクハラ・DVの解決
11	福祉の仕事と教育
12	ボランティア・市民活動・NPOの役割
13	福祉を創りだした女性たち
14	男女共同参画と福祉社会のビジョン - 私のライフプランニングを通じて
15	レポートの報告と講評

評価

出席および意見の発表・討議への参加態度（20点）、期末レポート（80点）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

推薦書：春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

杉本貴代栄『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書 369/S

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

聴覚に障害を持った人たちのことばである「手話」について学びます。

また、読唇、筆談、空書など手話以外のコミュニケーション手段についても体験します。

それらを通して人がコミュニケーションすること全般について考えてみます。

聴覚障害について医学、教育、文化、心理の面から理解を深めます。

内容

- 1.あいさつ
- 2.家族
- 3.曜日
- 4.指文字
- 5.名前
- 6.指文字
- 7.趣味
- 8.指文字
- 9.地名
- 10.自己紹介
- 11.実技試験
- 12.疑問文
- 13.食事
- 14.動物
- 15.筆記試験

評価

出・欠席、遅刻、授業態度(30%)、実技試験(40%)、筆記試験(30%)の合計で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書 谷千春監修「実用手話ハンドブック」新星出版社 378.28/J

科目名	社会福祉基礎実習		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、栗原 直樹、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これから社会福祉を学ぶ学生が社会福祉の実践現場を学ぶうえでの、基本姿勢、基礎的態度を形成することをねらいとする。そのような意味で、本授業は社会福祉実習教育における入門的な位置づけである。

また、本授業以降実施される各コースの配属実習の基礎科目としての位置づけももつ。後日、現場実習を予定する学生は、この授業を通して自分の実習時のイメージを形成していくことが求められる。

内容

1. 社会福祉の実践現場を学ぶ上での基本姿勢の形成：最低限の社会的スキル（あいさつ、マナー、身だしなみ）、現場参入のための手続き（現場の状況に合った服装や振る舞い、自己のリスク管理など）
2. 社会福祉を学ぶモチベーションの形成・促進、学習集団としてのパフォーマンスの向上（グループ学習スキル、プレゼンテーションなど）
3. 利用者とのコミュニケーションにおける基本技術
4. 主に障害者福祉、児童福祉、老人福祉など社会福祉の主要な各領域の代表的な「現場」についての学習
5. 施設での見学・体験実習
6. 見学実習体験の明確な記述
7. 将来の実習イメージの形成、明確化

評価

出席40点、授業中指示するレポート課題60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に配布する「基礎実習 要項」等を使用する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする各社会福祉援助技術によってなされるその専門的援助行為は、利用者と援助者との人間的な関係性に規定されることとなる。ここに対人援助の専門職(helping profession)といわれる福祉実践の特質がある。それゆえ将来福祉職を目指す学生は、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築き、生きていく力を形成することが求められる。これら対人関係を築き生きていく力を形成することとは、他者への十分な理解及び自分自身への理解(自己覚知)をそれぞれ広げ深めていく力であると言い換えられる。本授業では福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくに必要な学生自身の自己覚知を広げ深めていくことをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション
2	相談援助、専門的援助関係の意味、援助者の自己概念と自己覚知
3	自己概念の気づきのワーク1：自己紹介、他者紹介など
4	自己概念の気づきのワーク2：Who I am?、交流分析など
5	自己概念の気づきのワーク3：ライフラインなど
6	自己概念の気づきのワーク4：ジェノグラム、エコマップなど
7	自己覚知と価値観、他者理解1
8	自己覚知と価値観、他者理解2
9	専門的援助関係における自己覚知の意義：自己の活用について
10	援助的コミュニケーション1：対人コミュニケーションのモデル
11	援助的コミュニケーション2：非言語的コミュニケーション
12	援助的コミュニケーション3：基本姿勢、基本的態度(マイクロスキルズ)
13	援助的コミュニケーション4：傾聴の技法
14	観察と記録
15	まとめ、整理

評価

授業中のミニレポート40点、最終レポートもしくは試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習1 対人援助の基礎』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする各社会福祉援助技術によってなされるその専門的援助行為は、利用者と援助者との人間的な関係性に規定されることとなる。ここに対人援助の専門職(helping profession)といわれる福祉実践の特質がある。それゆえ将来福祉職を目指す学生は、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築き、生きていく力を形成することが求められる。これら対人関係を築き生きていく力を形成することとは、他者への十分な理解及び自分自身への理解(自己覚知)をそれぞれ広げ深めていく力であると言い換えられる。本授業では福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくに必要な学生自身の自己覚知を広げ深めていくことをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション
2	相談援助、専門的援助関係の意味、援助者の自己概念と自己覚知
3	自己概念の気づきのワーク1：自己紹介、他者紹介など
4	自己概念の気づきのワーク2：Who I am?、交流分析など
5	自己概念の気づきのワーク3：ライフラインなど
6	自己概念の気づきのワーク4：ジェノグラム、エコマップなど
7	自己覚知と価値観、他者理解1
8	自己覚知と価値観、他者理解2
9	専門的援助関係における自己覚知の意義：自己の活用について
10	援助的コミュニケーション1：対人コミュニケーションのモデル
11	援助的コミュニケーション2：非言語的コミュニケーション
12	援助的コミュニケーション3：基本姿勢、基本的態度(マイクロスキルズ)
13	援助的コミュニケーション4：傾聴の技法
14	観察と記録
15	まとめ、整理

評価

授業中のミニレポート40点、最終レポートもしくは試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習1 対人援助の基礎』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする各社会福祉援助技術によってなされるその専門的援助行為は、利用者と援助者との人間的な関係性に規定されることとなる。ここに対人援助の専門職(helping profession)といわれる福祉実践の特質がある。それゆえ将来福祉職を目指す学生は、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築き、生きていく力を形成することが求められる。これら対人関係を築き生きていく力を形成することとは、他者への十分な理解及び自分自身への理解(自己覚知)をそれぞれ広げ深めていく力であると言い換えられる。本授業では福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくに必要な学生自身の自己覚知を広げ深めていくことをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション
2	相談援助、専門的援助関係の意味、援助者の自己概念と自己覚知
3	自己概念の気づきのワーク1：自己紹介、他者紹介など
4	自己概念の気づきのワーク2：Who I am?、交流分析など
5	自己概念の気づきのワーク3：ライフラインなど
6	自己概念の気づきのワーク4：ジェノグラム、エコマップなど
7	自己覚知と価値観、他者理解1
8	自己覚知と価値観、他者理解2
9	専門的援助関係における自己覚知の意義：自己の活用について
10	援助的コミュニケーション1：対人コミュニケーションのモデル
11	援助的コミュニケーション2：非言語的コミュニケーション
12	援助的コミュニケーション3：基本姿勢、基本的態度(マイクロスキルズ)
13	援助的コミュニケーション4：傾聴の技法
14	観察と記録
15	まとめ、整理

評価

授業中のミニレポート40点、最終レポートもしくは試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習1 対人援助の基礎』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。また相談援助事例を通して、相談援助の基本的な過程について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの基本姿勢：バイステック、ロジャーズなど
3	ソーシャルワークの過程：インテーク、スクリーニング
4	ソーシャルワークの過程：アセスメント
5	ソーシャルワークの過程：プランニング、契約、実施
6	ソーシャルワークの過程：評価、終結
7	基本的面接・コミュニケーション技術：波長合わせ、ジョイニング、プロンプト、プローブなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
10	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
11	相談援助事例理解：ロールプレイを活用して
12	相談援助事例理解：ロールプレイを活用して
13	相談援助事例理解：記録の方法
14	相談援助事例理解：記録の方法
15	まとめと整理

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

山辺朗子『ワークブック 社会福祉援助技術演習 2 個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。また相談援助事例を通して、相談援助の基本的な過程について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの基本姿勢：バイステック、ロジャーズなど
3	ソーシャルワークの過程：インテーク、スクリーニング
4	ソーシャルワークの過程：アセスメント
5	ソーシャルワークの過程：プランニング、契約、実施
6	ソーシャルワークの過程：評価、終結
7	基本的面接・コミュニケーション技術：波長合わせ、ジョイニング、プロンプト、プローブなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
10	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
11	相談援助事例理解：ロールプレイを活用して
12	相談援助事例理解：ロールプレイを活用して
13	相談援助事例理解：記録の方法
14	相談援助事例理解：記録の方法
15	まとめと整理

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

山辺朗子『ワークブック 社会福祉援助技術演習2 個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。また相談援助事例を通して、相談援助の基本的な過程について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの基本姿勢：バイステック、ロジャーズなど
3	ソーシャルワークの過程：インテーク、スクリーニング
4	ソーシャルワークの過程：アセスメント
5	ソーシャルワークの過程：プランニング、契約、実施
6	ソーシャルワークの過程：評価、終結
7	基本的面接・コミュニケーション技術：波長合わせ、ジョイニング、プロンプト、プローブなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
10	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
11	相談援助事例理解：ロールプレイを活用して
12	相談援助事例理解：ロールプレイを活用して
13	相談援助事例理解：記録の方法
14	相談援助事例理解：記録の方法
15	まとめと整理

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

山辺朗子『ワークブック 社会福祉援助技術演習2 個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

内容

積極的な参加のもとに具体的な課題別の相談援助事例(集団に対する相談援助事例を含む)を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。

評価

レポート40点、授業への参加状況と技術の習得状況60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する

科目名	相談援助演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得しするとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

内容

積極的な参加のもとに具体的な課題別の相談援助事例(集団に対する相談援助事例を含む)を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。

評価

レポート40点、授業への参加状況と技術の習得状況60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

内容

積極的な参加のもとに具体的な課題別の相談援助事例(集団に対する相談援助事例を含む)を活用し、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得すること。

評価

レポート40点、授業への参加状況と技術の習得状況60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に紹介する

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

次の事柄について個別指導及び集団指導を行う。

- 1 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
- 2 実習分野と施設、事業者等に関する理解
- 3 実習先で行われる介護や保育等の基本的な理解
- 4 現場体験学習及び見学実習
- 5 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- 6 プライバシー保護と守秘義務
- 7 実習記録ノートの記録内容及び記録方法に関する理解
- 8 実習生、担当教員、実習指導者との協議を経た実習計画の作成
- 9 巡回指導
- 10 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と総括レポートの作成
- 11 実習の評価全体総括会

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社会福祉実習研究会編「社会福祉実習サブノート」中央法規

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

暮らしと命を支える介護福祉の役割を理解する

介護を必要とする人々の暮らしとその想いを理解する

多様な場での介護実践から学ぶ

内容

1	オリエンテーション
2	暮らしの支援とは
3	生活様式や文化の多様性と変容
4	暮らしを豊かに彩る生活環境
5	生活障害とは
6	介護の成り立ち
7	生活支援,地域づくりとしての介護
8	様々な生活支援とその意義 1
9	様々な生活支援とその意義 2
10	利用者家族への支援
11	尊厳を支える介護
12	研究発表 1
13	研究発表 2
14	まとめ
15	試験

評価

平常点 30点 試験 70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 井上千津子編「介護の基本」ミネルヴァ書房

推薦書: 介護福祉士養成講座編集委員会「新・介護福祉士養成講座 3巻介護の基本」中央法規出版

伊藤幸子 森山千賀子 「自立(律)性を高めるための援助の視点」萌文社

社会福祉法人「協同福祉会」編「介護の基本」クリエイツかもがわ

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

暮らしと命を支える介護福祉の役割を理解する

介護福祉をめぐる法制度の成り立ちと社会的な現状・その背景を理解する

介護を必要とする人々の暮らしとその想いを理解する

多様な介護実践から、介護の課題を学ぶ

内容

1	オリエンテーション
2	社会の変化と介護福祉士の成り立ち
3	社会福祉士及び介護福祉士法について
4	介護福祉士の成長・社会貢献としての専門職団体の機能と役割
5	介護福祉士の倫理とは
6	介護サービスの特性 介護保険制度と介護保険サービス
7	介護サービスが展開される場1 居宅系サービス
8	介護サービスが展開される場2 入所系サービス
9	トピックス
10	介護福祉士と他職種連携
11	介護福祉士と地域連携
12	研究発表1
13	研究発表2
14	まとめ
15	試験

評価

平常点30点 試験60点 60点を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

介護福祉士養成講座編集委員会「新・介護福祉士養成講座 4巻[介護の基本]」中央法規出版

アブラハムソン「スウェーデンの高齢者と介護」ノルディック出版

澤戸夏代ブランド「デンマークの高齢者が世界一幸せなわけ」大月書店

科目名	介護と倫理		
担当教員名	織田 つや子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

介護従事者の倫理とその課題を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

講義及びグループワークによる

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

介護従事者の倫理とその課題を理解できる

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1	オリエンテーション
2	専門職とは(1) 専門職とはなにか
3	専門職とは(2) 様々な専門職に求められる倫理
4	介護従事者の倫理(1) 介護職の歴史から求められる倫理
5	介護従事者の倫理(2) 介護現場で求められる倫理
6	介護従事者の倫理(3) 虐待とその対応
7	利用者の人権(1) 高齢者分野における職業倫理の必要性
8	利用者の人権(2) 障がい者分野等における職業倫理の必要性
9	プライバシーの保護(1) 人間の尊厳とは
10	プライバシーの保護(2) 個人情報保護法と介護福祉のあり方
11	事例の提示
12	事例検討
13	発表
14	まとめ
15	試験

評価

[単位認定の方法及び基準]

試験40点 演習シート50点 平常点10点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座編集委員会 『新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本』 中央法規出版

介護福祉士養成講座編集委員会 『新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本』 中央法規出版

科目名	介護と自立		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

自立に向けた介護の必要性和方法を学ぶ

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

そのひとらしい自立に向けた介護の必要性和方法を理解する

内容

1. オリエンテーション
2. 自立に向けた介護(1)多様な自立支援、生活意欲に働きかけるエンパワメントの視点
3. 自立に向けた介護(2)施設や地域における自立支援の具体的な展開
4. 個別ケアの理解(1)個別援助の考え方
5. 個別ケアの理解(2)具体的な展開
6. ICFの理解(1)ICFの考え方
7. ICFの理解(2)環境因子
8. ICFの理解(3)ICFの視点に基づくアセスメント
9. リハビリテーション(1)リハビリテーションの考え方
10. リハビリテーション(2)介護予防
11. リハビリテーション(3)様々な場におけるリハビリテーション
12. リハビリテーション(4)チームアプローチ
13. 事例検討
14. まとめ
15. 試験

評価

出席30点、試験50点、レポート20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 必要に応じ随時プリントを配布する

推薦書: 西本典良『動作を見る介護 リハビリテーションの応用で介護力を高める』誠信書房

辛島千恵子『発達障害をもつ子どもと成人、家族のためのADL』三輪書店

辛島千恵子『発達障害をもつ子どもと成人、家族のためのADL』三輪書店

科目名	介護と環境		
担当教員名	狐塚 七重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の目的・ねらい】

介護における安全の確保とリスクマネジメントを利用者の立場、介護福祉士の立場から理解する。

【授業全体の内容の概要】

講義とグループワークによる。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

介護における安全の確保を利用者の立場、介護福祉士の立場を理解できる。

内容

1	オリエンテーション
2	介護における安全の確保 (1) 介護における安全の確保の重要性
3	介護における安全の確保 (2) 安全確保のためのリスクマネジメント
4	介護における安全の確保 (3) 事故・トラブルを繰り返さないための検討
5	事故防止・安全対策 (1) 事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み
6	事故防止・安全対策 (2) 演習・事例検討
7	事故防止・安全対策 (3) 生活の中のリスクと対策
8	事故防止・安全対策 (4) 演習
9	感染管理のための方策 (1) 生活の場での感染対策・演習
10	感染管理のための方策 (2) 感染対策の基礎知識・演習
11	介護に携わる人の健康管理 (1) 健康管理の意義と目的
12	介護に携わる人の健康管理 (2) 心の健康管理
13	介護に携わる人の健康管理 (3) からだの健康管理
14	安心して働ける環境づくり 労働環境の整備
15	試験

評価

試験50点 レポート20点 平常点30点 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

介護の基本 (新介護福祉士養成講座) 編集 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解する。

介護を必要とするものとの専門的援助関係の意義について理解し、その概要を説明することができること、また対話技法を中心とした積極的傾聴の技術と基本姿勢を理解し、積極的傾聴の基本技術を習得することを目的とする。

内容

1	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割
2	コミュニケーションモデルの概要
3	コミュニケーションの語用論
4	積極的傾聴と援助者の態度
5	援助者の気づきと洞察
6	転移、逆転移、投影性同一化
7	傾聴の技法
8	積極的技法
9	納得と同意を得る技法
10	意欲を引き出す技法
11	相談、助言、指導
12	利用者本人と家族の意向の調整を図る技法
13	感覚機能・運動機能が低下している人とのコミュニケーション
14	認知・運動機能が低下している人とのコミュニケーション
15	まとめと整理

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

利用者及び利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーションの意義について理解し、その能力にかかわる基本姿勢を身につける。

内容

1	オリエンテーション
2	介護におけるチームのコミュニケーション
3	介護における記録の意義、目的
4	記録の方法、留意点、記録の種類
5	関与観察と間主観的態度、エピソード記述
6	インシデントレポート、プロセスレコード
7	報告・連絡の意義、目的
8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション
9	ケース会議と事例研究
10	ケース会議の方法
11	ケース会議とスーパービジョン
12	記録の管理と共有化
13	ITを活用した記録の意義、留意点介護記録における個人情報保護
14	介護記録における個人情報保護
15	まとめと整理

評価

ミニレポート40点、最終レポートもしくは試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	生活支援技術概論		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちは「生活とは何か」について特に意識することなく、毎日を過ごしている。生活支援を理解するにあたり、最初に生活がどのような側面から構成されているかなど、「生活とは何か」を理解する必要がある。

人としての生活とは、単に生命を維持するためのものではなく、家族、地域や社会とかかわりを持ちながら、人間として尊厳のある暮らしをすることである。援助を必要な人にとって、人間として尊厳のある暮らしとは、どのようなものかを、理解することを目指している。

内容

1. 生活とは 生活の定義、生活を理解する視点
2. 生活経営とは 生活経営の構成要素
3. 生活支援の基本的な考え方
4. 生活支援におけるICFの視点にもとづくアセスメント
5. 生活支援における介護予防
6. 生活環境の理解 自宅・施設・グループホーム等

評価

出席・平常の学習態度 (30%)、試験 (70%) を総合的に評価する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業における学習のねらいは、障害者や高齢者など、日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、実習に必要な様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

1. 基本となる介護技術
2. アセスメントとは何か
3. 自立に向けた環境の整備
4. 自立に向けた移動の介護

評価

出席・平常の学習態度 (30%)、ペーパーテスト・実技試験 (70%) を総合的に評価する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業における学習のねらいは、障害者や高齢者など、日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、実習に必要な様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

講義による生活支援技術の理論を学びながら、実技演習を中心に行う。

1. 自立に向けた身じたくの介護
 - 身じたくにおける介護技術
 - 身じたくの介護における他職種の役割と協働
2. 自立に向けた食事の介護
 - 食事における介護技術
 - 口腔の清潔の介護
 - 食事の介護における他職種の役割と協働

評価

出席・平常の学習態度 (30%)、ペーパーテスト・実技試験 (70%) を総合的に評価する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業における学習のねらいは、障害者や高齢者など、日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、実習に必要な様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

特に尊厳の保持・プライバシーへの配慮が必要な支援について、その知識と技術を学ぶ。

1. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
 - 入浴・清潔保持における介護技術
 - 入浴・清潔保持の介護における他職種の役割と協働
2. 自立に向けた排泄の介護
 - 排泄における介護技術
 - 排泄の介護における他職種の役割と協働
3. 自立に向けた睡眠の介護
 - 睡眠における介護技術
 - 睡眠の介護における他職種の役割と協働

評価

出席・平常の学習態度 (30%)、ペーパーテスト・実技試験 (70%) を総合的に評価する

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	生活環境支援技術		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ケアワーク」は、日常生活に根ざした広い視野に立ち、食生活、被服生活、住生活などの各専門分野について理解を深めることが重要である。

このような視点から、介護の基礎となる「生活環境」とそこで営まれる「住」に関する様々な技能を習得し、かつ高齢者や障害者の生活環境支援の能力を養うことを目的としている。

住生活について様々な視点から解説を行い、高齢者や障害者の生活環境支援のための技術について理解を深めるものである。

但し、モデルの制作などを行うため、人数に制限あり。

内容

1. 住居の役割と機能
2. 生活行動と生活空間
3. 快適な生活環境
 - ・夏の涼しい生活・冬の暖かい生活
 - ・生活と明かり
 - ・生活と音
 - ・生活と緑
4. 住居の管理と安全
 - ・住居の維持管理、衛生管理
 - ・事故防止等
5. 高齢者・障害者と住居
 - ・自立した生活
 - ・建築工学からの視点
 - ・地域と住環境

等々

評価

出席30点、及び課題、随時のレポート等による評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【参考図書】『福祉住環境コーディネーター検定試験 (3級テキスト)』

その他、授業の中で適時参考文献を配布、紹介する。

科目名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

家庭生活を中心とした人と環境との相互作用について学び、日常生活を充実させるための総合的な視点と思考を養う。

内容

1	ガイダンス
2	家庭生活の基礎知識(個人と家庭生活)
3	家庭生活の基礎知識(家庭生活とその経営、生活設計)
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点
6	家事援助の技法(調理1)
7	家事援助の技法(調理2)
8	家事援助の技法(掃除・ごみ捨て)
9	家事援助の技法(衣生活の基礎知識)
10	家事援助の技法(衣類・寝具の衛生管理)
11	家事援助の技法(裁縫1)
12	家事援助の技法(裁縫2)
13	家事援助の技法(買物)
14	自立に向けた家事の介護(利用者の状況に応じた介助の留意点)
15	まとめ

評価

試験および課題 60% 出席状況 40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業における学習のねらいは、障害に応じて、その人の状況に合わせた介護を行い、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、さまざまな障害を持つ利用者の生活について理解を深め、どのような介護が求められているかを理解する。

内容

利用者の状態・状況に応じた生活支援について理論と技術を学ぶ

1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは何か
2. 障害に応じた生活支援技術
 - 視覚障害に応じた介護
 - 聴覚・言語障害に応じた介護
 - 運動機能障害に応じた介護
 - 知的障害に応じた介護
 - 精神障害に応じた介護

評価

出席・平常の学習態度(30%)、ペーパーテスト・実技試験(70%)を総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業における学習のねらいは、障害に応じて、その人の状況に合わせた介護を行い、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、さまざまな障害を持つ利用者の生活について理解を深め、どのような介護が求められているかを理解する。

内容

1. 障害に応じた生活支援技術
 - 発達障害に応じた介護
 - 重複障害(重症心身)に応じた介護
 - 重複障害(盲ろう)に応じた介護
2. 認知症のある人に応じた生活支援技術
 - 認知症介護の基本視点
 - 認知症介護の事例

評価

出席・平常の学習態度(30%)、ペーパーテスト・実技試験(70%)を総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	関根 良子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護過程の展開では、どのように利用者の生活を見て利用者を理解するかが問われます。

「介護過程基礎」では、介護過程展開の視点に気づき、広げることを目指しています。それは、自分自身を知ることからはじめます。そして、Aさんの事例を通して生活をさまざまな視点から見る必要性に気づくということを体験しましょう。それは、介護過程の展開の底に流れるテーマです。

内容

= 介護過程の視点に気づき、広げるために =

- 1・・・自分自身を知ること、アピールすること
長所と短所は表裏一体
- 2・・・介護が専門職であるために
課題解決過程を知る
- 3・・・利用者の実像に近づくために
- 4・・・利用者の願いや思いに気づく
- 5・・・利用者理解の視点
問題・課題と感ずること改善したほうがよい点
- 6・・・利用者理解の視点
良い点、大切にしたい点
- 7・・・介護過程の思考過程
- 8・・・ICDHからICFへ
なぜICFなのか 介護の専門性からみる
- 9・・・介護過程にICFを生かす
- 10・・・活動と参加 背景因子
- 11・・・利用者理解の視点
ICFの視点でAさんの生活をみる
- 12・・・相手の立場に立つということ
- 13・・・利用者の生きてきた時代を知る(事例)
- 14・・・利用者の生きてきた時代を調べる
- 15・・・まとめ

評価

授業への参加を重視します。

授業中のレポート、グループワークの発表、個人レポートの提出

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 介護福祉教育研究会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

推薦書 黒沢貞夫編「ICFを取り入れた介護過程」建帛社
Dフレイジャー著「あなたがうまれたひ」福音館

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	関根 良子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

専門職として介護を実践するには、その実践の根拠が明確でなければなりません。その方法を学ぶのが介護過程です。「介護過程基礎」では、介護過程の構造と要素について、事例をもとに具体的に学びます。介護が創造的な仕事であることを実感しましょう。

内容

- 1・・・課題解決過程と介護過程
- 2・・・介護に必要な情報
- 3・・・介護に必要な情報
- 4・・・介護に必要な情報
- 5・・・情報の整理と生活の全体像
- 6・・・情報の分析・解釈・統合
- 7・・・情報の分析・解釈・統合
- 8・・・生活課題
- 9・・・生活課題
- 10・・・目標の設定
- 11・・・具体的方法
- 12・・・具体的方法
- 13・・・実践の留意点
- 14・・・評価の視点
- 15・・・まとめ

評価

毎回の授業での取り組みファイル:70

記述試験:30

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

介護過程基礎 で使用した「楽しく学ぶ介護過程」久美出版

授業で配布する資料

科目名	介護過程展開		
担当教員名	森山 千賀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

本科目は他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことがねらいである。特に高齢者介護の現場での実践的な展開を理解する。

内容

[授業全体の内容の概要]

高齢者介護における介護過程の実践的展開を理解させる。
介護過程の展開について実習等で展開できるようにする。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

高齢者介護における介護過程の展開について説明できるようになる。
介護過程の展開について実習等で展開できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 介護過程の実践的展開(高齢者)総論
- 2 高齢者介護における自立にむけた介護過程の展開の実際 - 高齢者介護における生活とは
- 3 高齢者介護における自立にむけた介護過程の展開の実際 - 高齢者介護における自立の視点
- 4 高齢者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
- 5 高齢者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
- 6 高齢者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
- 7 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 居宅介護における展開
- 8 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 居宅介護における展開
- 9 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 地域と高齢者介護の展開
- 10 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 地域と高齢者介護の展開
- 11 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 地域と高齢者介護の展開
- 12 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 施設介護における展開
- 13 高齢者介護における介護過程の展開の演習 - 施設介護における展開
- 14 高齢者施設等における介護実習における介護過程の展開の応用
- 15 まとめと確認テスト

評価

[評価]

試験・レポートで60点、平常点（授業態度等）40点により総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]

伊藤幸子・森山千賀子『シリーズ・ホームヘルプ2 自立（律）性を高めるための援助の視点』萌文社

科目名	介護実習 - 1		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。

個別ケアを行うためのこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

内容

[授業全体の内容の概要]

- ・実習施設・事業等 の学外施設実習(合計4日間)
- ・実習施設・事業等 の学外施設実習(合計17日間)

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができる。

介護職の業務の流れが理解できる。

多職種協働の実践ができる。

個別ケアを理解するため、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程の実践ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・2年生 前期 在宅介護事業所、訪問入浴事業所等

合計4日間(32時間)

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・2年生 後期 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の入所施設

合計17日間(136時間)

評価

出席簿、記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価などによる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学内作成「実習の手引き」

科目名	介護総合演習		
担当教員名	野島 靖子、新井 幸恵、中村 幸子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 介護実習の教育効果を上げるため、実習に必要な知識や技術について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。
2. 介護実習 における実習の意義について理解する。
3. 実習前・中・後に及ぶ介護実習のプロセスを理解する。
4. 介護実習 - 1 から介護実習 - 2 まで介護実習全体の学びを理解する。

内容

- 1 介護実習とは何か
- 2 介護実習の実際、必要な知識と技術について
- 3 介護実習 の実習先の理解
- 4 介護実習におけるコミュニケーションマナー
- 5 介護実習の課題(目標)の立て方
- 6 介護実習の実習計画の立て方
- 7 介護実習における記録の書き方
- 8 介護実習に向けたグループ指導
- 9 介護実習前報告会(介護実習)
- 10 実習中の指導(巡回指導)
- 11 実習事後指導

評価

出席50%、提出記録50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

吉田節子編「ワークで学ぶ介護実習」みらい

科目名	介護総合演習		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告など、実習に必要な知識や技術について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

内容

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 必要な基本的な知識や技術、記録の方法などについて活用することができる。
- 介護施設の概要と利用者の生活像、介護福祉士の役割について説明できる。
- 自分自身の介護実習 - 1における学習課題を言語化できる。

- 1 介護実習 を振り返る
- 2 介護実習 - 1とは何か
- 3 介護福祉士と職業倫理
- 4 介護実習の記録の書き方(応用編)
- 5 介護実習の記録の書き方(応用編)
- 6 プロセスレコード
- 7 実習における共感的理解・受容的態度でのコミュニケーション技法
- 8 実習施設種別の理解
- 9 実習施設種別の理解
- 10 介護実習 - 1の実習目標の立て方
- 11 介護実習 - 1の実習計画の立て方
- 12 介護実習 - 1の実習計画を立てる
- 13 介護実習 - 1に向けたグループ指導
- 14 実習オリエンテーションの確認
- 15 実習前報告会

評価

試験やレポートの評価基準など

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する

科目名	発達と老化		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[講義の目的・ねらい]

ヒトはそのライフステージに応じて、生きる形がさまざまに変化する。ヒトの生涯を時間の軸でとらえ、能力の獲得とその変化を、発達と老化の視点から整理して理解する。

[講義全体の

講義中心

[講義修了時の達成課題 (達成目標)]

ヒトの成長・発達から老化をとらえ、ライフステージごとの課題を理解できる。

内容

[講義の日程と各回のテーマ・内容]

1. 「生きている」とはどういうことか・・・生物としてのヒトの特徴
2. ヒトの成長と発達・・・発達の定義・発達段階・発達課題とその障害
3. 成長・発達の多様性
4. 成熟と老化
5. 老化にともなう心身機能の変化 (1)
6. 老化にともなう心身機能の変化 (2)
7. 老年期の発達と成熟
8. 老年期の発達課題 人格と尊厳、老いの価値、喪失体験、不安、セクシュアリティ
9. 老年期の発達課題 認知症
10. 高齢者医療の現状・・・医療の選択と主体性
11. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 (1)
12. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 (2)
13. 「老い」と「死」の理解
14. 保健医療職の課題
15. 試験

評価

[単位認定の方法および基準]

試験60点 レポート20点 平常点20点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書)

林他・発達と老化の理解---こころとからだのしくみ(最新介護福祉全書)・メジカルフレンド社

(資料)

資料集・高木俊治・講義の中で案内します

科目名	発達と老化		
担当教員名	遠藤 忠		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 生涯発達の観点から, 人間の発達過程をさまざまな理論, エビデンスを通して理解すること。
2. 特に老年期の心身の機能変化と日常生活への影響について理解すること。

内容

1	人間の発達の基礎的理解 1 : 発達の考え方とその理解
2	人間の発達の基礎的理解 2 : 生涯発達にもとづいた理論 1 (発達段階, 発達課題)
3	人間の発達の基礎的理解 2 : 生涯発達にもとづいた理論 2 (発達段階, 発達課題)
4	老年期の発達 1 : 老年期の定義
5	老年期の発達 2 : 老年期の発達課題
6	老化に伴うこころの変化と日常生活 1 : 認知機能の変化 (知覚・感覚)
7	老化に伴うこころの変化と日常生活 2 : 認知機能の変化 (記憶)
8	老化に伴うこころの変化と日常生活 3 : 認知機能の変化 (精神運動機能)
9	老化に伴うこころの変化と日常生活 4 : 知的機能の変化 (知能 1)
10	老化に伴うこころの変化と日常生活 5 : 知的機能の変化 (知能 2)
11	老化に伴うこころの変化と日常生活 6 : 老年期のパーソナリティ 1
12	老化に伴うこころの変化と日常生活 7 : 老年期のパーソナリティ 2
13	老化に伴うこころの変化と日常生活 8 : 老年期の人間関係 1
14	老化に伴うこころの変化と日常生活 9 : 老年期の人間関係 2
15	試験

評価

出席30点、ペーパーテスト60点及びレポート10点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	認知症の理解		
担当教員名	村上 哲雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症の人に認められる高次脳機能障害に基づく意思表示が困難などの特性を理解し、本陣のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業全体の内容の概要]

講義中心。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

認知症の医学的・心理的な基礎理解が出来る。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1、認知症の人の体験の理解
- 2、認知症の人の介護に向けて
- 3、本人本位の視点を確かなものにする
- 4、認知症の人の体験について
- 5、認知症を取り巻く状況
- 6、認知症ケアの歴史
- 7、認知症ケアの理念と視点
- 8、認知症の人の医学・行動・心理的理解
- 9、認知症とは？
- 10、認知症の診断
- 11、認知症の原因疾患と治療
- 12、認知症の予防
- 13、認知症の人の行動・心理症状
- 14、認知症の人の心理的理解
- 15、試験

評価

試験 100点満点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新・介護福祉士養成講座 12「認知症の理解」(中央法規出版株式会社)

発行者：莊村 明彦

2009年1月20日発行

科目名	認知症の理解		
担当教員名	戸田 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する

内容

認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援を、講義およびグループワークで学ぶ

1	認知症の人の生活理解 認知機能の変化と日常生活
2	環境の力 居住環境と生活環境
3	認知症の人の日常生活の継続と課題 リスクマネジメント
4	認知症介護の基本的視点
5	認知症の気づきとアセスメント
6	認知症進行別・病態別介護とターミナル期の介護
7	本人を支える視点とは 本人の思いとは
8	地域連携と協働 地域におけるサポート体制とは
9	チームアプローチ 多職種協働の継続的ケア
10	家族への支援 家族の思いとレスパイトケア
11	家族へのエンパワメント
12	認知症対策と介護保険
13	その他の制度と関連機関 成年後見制度と権利擁護事業
14	グループディスカッション
15	試験

評価

試験50点 レポート20点 平常点30点 60点以上で合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「認知症介護のために知っておきたい大切なこと」パーソンドセンタードケア入門

トムキッド&キャスリーンブレディン著 高橋誠一監訳 筒井書房

「認知症とは何か」

小澤 勲著 岩波新書 942

科目名	障がいの理解		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

国際生活機能分類(ICF)に基づいて、障害の医学的な側面の理解を中心としておこなう。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識の理解

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1. 障害の基礎的理解 障害の概念、障害のとらえかた
2. 障害者福祉の基本理念、ノーマライゼーション、国際障害者年の理念他
3. 障害の医学的側面の基礎的知識
4. 身体障害、視覚障害の種類と原因と特性
5. 身体障害、聴覚障害、言語障害の種類と原因と特性
6. 身体障害、肢体不自由の種類と原因と特性 (1)
7. 身体障害、肢体不自由の種類と原因と特性 (2)
8. 身体障害、内部障害の種類と原因と特性 (1)
9. 身体障害、内部障害の種類と原因と特性 (2)
10. 精神障害の種類と原因と特性
11. 知的障害の種類と原因と特性
12. 発達障害の種類と原因と特性
13. 難病の種類と原因と特性 (1)
14. 難病の種類と原因と特性 (2)
15. 試験

評価

[単位認定の方法および基準]

試験60点 レポート20点 平常点20点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(教科書)

こころとからだのしくみ---障害の理解(最新介護福祉全書 11) ・メジカルフレンド社

(資料)

高木俊治・資料集・講義の中で案内します

科目名	障がいの理解		
担当教員名	畠山 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

障がいをもつ人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいをもつ人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業全体の概要]

講義を中心とし、障がいをもつ人の特性、生活上の諸問題及び介護上の注意点などについて理解を深める。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

障がいをもつひとの立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

[授業の各回のテーマと内容]

1. 障害の基礎的理解、障害の概念、障害の捉え方
2. 障害者の人権、障害者福祉の理念、ノーマライゼーション、国際障害者年の理念、その他
3. 障害をもつ人の心理、障害が及ぼす心理的影響
4. 障害の受容・適応と適応規制、その他
5. 視覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
6. 聴覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
7. 言語機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
8. 肢体不自由に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
9. 内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
10. 精神障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
11. 知的障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
12. 発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
13. 難病に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
14. 連携と協働、地域におけるサポート体制及び家族への支援
15. 試験

評価

[単位認定の方法及び基準]

試験50点 レポート20点 平常点30点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

谷口敏代編 『こころとからだのしくみ 障害の理解 最新介護福祉全書11』メヂカルフレンド社
(ISBN978-4-8392-3151-4)

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護技術の基本となる,人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や,心理的側面への配慮について理解する学習とする。

内容

1	ガイダンス、 第1章 「生きている」しくみの理解
2	第2章 こころのしくみの理解
3	第3章 「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ 身じたくに関連する基礎知識
4	機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響、 変化の気づきと医療職との連携
5	第4章 「活動」に関連したこころとからだのしくみ 活動に関連する基礎知識
6	活動と生活動作、 活動の低下・障害が活動に及ぼす影響、
7	活動に関した変化の気づきと医療職との連携
8	第5章 「食事」に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連する基礎知識
9	消化と吸収 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響
10	安全な食事のための留意点
11	第6章 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ 排泄に関連する基礎知識
12	排泄の意義としくみ
13	排泄のしくみが乱れる機能の低下・障害
14	排泄に関した変化の気づきと医療職との連携
15	まとめおよび試験

評価

[単位認定の方法及び基準]

試験60点,レポート20点,平常点20点, 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

最新介護福祉全書12「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	中村 幸子、高世 秀仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護技術の基本となる,人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や,心理的側面への配慮について理解する学習とする。

内容

1	第6章「入浴、清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
2	入浴、清潔保持の実際
3	機能低下や障害が「入浴、清潔保持」に及ぼす影響
4	「入浴、清潔保持」における変化の気づきと医療職との連携
5	第8章 「睡眠」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
6	生活習慣と睡眠
7	高齢者の睡眠障害
8	安楽に関連したこころとからだのしくみ 安楽の生理的意味
9	安楽、リラックス、爽快感を感じるしくみ
10	第9章 死にゆく人のこころとからだのしくみ 「死」の捉え方
11	終末期から危篤、死亡時のからだの理解
12	「死」に対するこころの理解、「死」の受容段階
13	家族、医療の実際と介護の連携
14	グリーフケア
15	まとめ 試験

評価

試験60点 レポート20点 平常点20点 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

最新介護福祉全書 1 2 「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

科目名	介護基礎（入門）		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 介護福祉の社会的意義と期待される役割を学ぶ
- 介護を要する人々の暮らしとその思いを理解する
- 介護実践に必要な理論と技術の体系を理解する

内容

1	オリエンテーション 介護福祉とは何か
2	介護の基本
3	介護を必要とする人々の暮らし 高齢者
4	介護を必要とする人々の暮らし 障害者
5	生活支援の必要と課題
6	生活歴と生活文化の変容
7	利用者理解の方法 介護過程
8	暮らしの変化と介護の歴史
9	介護に関連する諸法制と専門性への希求
10	ノーマライゼーションの実践ー施設介護の広がり
11	ノーマライゼーションの実践ー地域介護の展開
12	研究発表 1
13	研究発表 2
14	まとめ
15	試験

評価

平常点 30点 試験 70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：井上千津子編「介護の基本」ミネルヴァ

推薦書：社会福祉法人共同福祉会「介護の基本」クリエイツかもがわ

小竹雅子「介護認定」岩波ブックレット

チャールズ・A・ラップ「ストレングスモデル」金剛出版

科目名	介護基礎（応用）		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間の自然なからだの動きを理解し、身体機能の低下や障害が、日常生活に与える影響を理解する。
さらに援助を要する人の自立・自律を尊重した、安全かつ適切な介護技法について理解する。

内容

1	ガイダンス、介護技術を学ぶ意義
2	実習室探検：実習室にある用具の使用方法を理解する
3	高齢者・障がい者の体験をし、身体的機能の低下が生活に与える影響を理解する
4	車椅子の機能や使用法・介助法を理解する
5	介護者の健康管理：健康な心身と生活について理解する。ボディメカニクスの活用
6	生活環境の整備、ベッドメイキングの技法
7	移動・体位変換の技法（自然な動きを活かした技法）
8	移動・移乗の技法（自立を促す技法）
9	好ましい衣類の選択と、着脱の介護の基本（個性を尊重し、かつ安全に）
10	食事の意義、食事の基礎知識、介助時の原則
11	食事介助の技法および誤嚥時の対応
12	排泄の意義、基礎知識、排泄のアセスメント
13	排泄介護の技法（オムツの適切な活用法）
14	緊急時の対応
15	まとめ、試験

評価

試験60点,レポート20点,平常点20点, 60点以上合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(一人親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援及び青少年育成等)と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利(子どもの最大の利益を実現する視点)を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

内容

- 1 子ども・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 2 子ども・家庭福祉の理念と歴史
- 3 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらまし
- 4 児童福祉施設の概要

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	児童・家庭福祉特論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 子ども・家庭福祉論の学習を前提として、子ども・家庭福祉の各分野における施策の現状と課題を 把握する。
- 2 子ども・家庭福祉サービスの状況を理解する。
- 3 サービスを実施する専門職の機能を理解する。
- 4 子ども・家庭福祉に関わる相談援助活動を理解する。

内容

- 1 母子保健施策
- 2 障害児に関わる施策
- 3 保育施策
- 4 ひとり親について
- 5 非行児童について
- 6 いわゆる情緒障害児について
- 7 社会的養護の現状
- 8 子ども虐待の現状と課題

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 社会福祉六法

科目名	社会調査の基礎		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.社会調査の意義と目的および方法の概要を理解し、社会福祉援助技術における位置づけを理解する。
- 2.統計法の概要、社会調査における倫理・個人情報保護について理解する。
- 3.量的調査の方法および質的調査の方法について理解する。

内容

1	社会調査の意義と目的および対象、社会福祉援助技術としての留意点
2	統計法の概要および各種統計の利用方法
3	課題 : 統計データの検索と分析
4	社会調査における倫理および個人情報保護
5	量的調査の分類 - 全数調査と標本調査(含サンプリング)、横断調査と縦断調査等
6	量的調査の方法 - 自計式調査と他計式調査、測定の水準、信頼と妥当性等
7	量的調査における質問紙の作成方法と留意点、配布と回収方法
8	量的調査におけるデータの集計と分析
9	課題 : 質問紙の作成と集計・分析例の検討
10	質的調査の方法 - 観察法・面接法
11	質的調査における記録と留意点
12	質的調査によるデータの整理と分析
13	質的調査の分析例の検討
14	社会調査におけるITの活用方法
15	レポート発表および講評

評価

受講態度10%、授業中の課題の評価30%、レポートの評価60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	社会調査の応用		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.社会調査の知識・技法にもとづいて、現代社会を深く理解することをねらいとする。
- 2.福祉の間接援助技術としての社会福祉調査の特徴を理解する。
- 3.社会調査の成果と限界を理解する。

なお、前期「社会調査の基礎」を履修したうえで、本科目を履修することが望ましい。

内容

課題を設定し、その解決のアプローチとなる社会調査の企画・実施・結果の分析・報告等のシュミレーションを行う。

- 1.調査のねらいとテーマ設定
- 2.企画書の作成
- 3.調査票の作成および実施
- 4.調査結果の集計・分析
- 5.調査結果のとりまとめ
- 6.レポートの作成とプレゼンテーション

評価

受講態度(10点)、授業中の課題(30点)、レポート(60点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書：森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	介護技術演習		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護は身体や精神に障害があっても、その人らしい生活をできる限り尊重して自立できるように最小限の援助を行うことが基本である。その基礎的介護技術に加えて、慢性疾患を持ちながら生活している利用者の自己管理や、医療対応の基礎知識および緊急時対応からターミナル期の介護にいたるまでの、必要な知識技術をもち、必要な援助ができることを目指している。

内容

介護技術演習 ・ で学んだ生活援助の技術をさらに発展させ、自立を目指す応用介護技術を学ぶ。

- 1.在宅における介護援助法の理解と対応1 (日常生活動作と住環境)
- 2.在宅における介護援助法の理解と対応2 (生活支援技術)
- 3.在宅における介護援助法の理解と対応3 (外出など移動支援)
- 4.医療依存度の高い利用者への介護援助法1 (薬の基礎知識)
- 5.医療依存度の高い利用者への介護援助法2 (治療食の知識)
- 6.医療依存度の高い利用者への介護援助法3 (身体不調時の対応)
- 7.緊急時の対応1 (応急手当、事故とその対応)
- 8.緊急時の対応2 (心肺蘇生の知識と実践)
- 9.保健医療との連携 (事例に即した対応法の研究1)
- 10.保健医療との連携 (事例に即した対応法の研究2)
- 11.終末期の介護1 (終末期のもつ意味)
- 12.終末期の介護2 (終末期と尊厳)
- 13.終末期の介護3 (終末期のアセスメント)
- 14.終末期の介護4 (終末期介護の援助法)
- 15.まとめおよび試験

評価

学習状況・レポート提出状況 (40%)、ペーパーテスト (60%) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『介護技術 . . .』 中央法規

【参考図書】適宜紹介

科目名	形態別介護技術演習		
担当教員名	新井 幸恵、谷 千春、中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.精神障害・知的障害の医学的基礎知識を学び、生活困難および必要な介護方法について理解する。
- 2.障害をもつ人々の地域生活を支える介護技術と関連施策について理解する。
- 3.聴覚・言語障害に関する医学的基礎知識を理解し、心理・生活に配慮した、介護のあり方と自立支援 について考える。残存感覚機能を理解し、福祉機器の活用とコミュニケーション方法を習得する。

内容

前期

1. 自立支援法、精神保健福祉法、介護保険法にみる精神障害者・知的障害者の「介護」分野
2. 精神障害者・知的障害者の暮らしを支える日常生活支援をめぐる援助技術と地域連携
3. ケアマネジメントに基づく、障害をもつ人々の在宅介護事例の検討

後期

1. 聴覚・言語障害と関連医学領域の基礎知識と、障害に起因する生活の困難性について
2. 残存感覚機能の特性と活用、および福祉機器について理解と、介護上の対応について
3. 聴覚・言語障害と社会生活の可能性について
4. コミュニケーション介護(筆談、読話、補聴器等福祉用具の取り扱い、手話の基礎単
の表現と指文字の習得)について

語・数字

評価

平常点 30点 試験70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】前期 介護福祉士養成講座「14形態別介護技術」

後期 谷千春著 『コンパクト手話辞典』 池田書店発行

【推薦書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の地域生活支援 萌文社

伊藤順一郎 「統合失調症」 講談社

朝日福祉ガイドブック「精神障害者のホームヘルプ」朝日新聞厚生文化事業団

科目名	形態別介護技術演習		
担当教員名	新井 幸恵、当山 啓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 視覚障がい者の介護に関する医学的知識・技術、支援上の連携について学ぶ
- 2 とりわけコミュニケーション手段である、点字に関する初歩的な知識を学ぶ
- 3 福祉用具の基礎知識を得る
- 4 視覚障がい者の日常生活に関する支援のあり方を学ぶ

内容

- 1 点字の読み方、書き方を学び基礎的な練習問題を通じてコミュニケーションの実際を知る
- 2 様々な福祉用具を駆使した移動・歩行介護・日常生活支援の実際を学ぶ
- 3 視覚障がいの医学的・心理学的理解を深める
- 4 地域や施設における視覚障がい者の介護を学ぶ

評価

平常点30点 試験70点 60点を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】「点訳のしおり」日本点字図書館編
- 【推薦書】 「点字点訳基本入門」日本点字図書館
「日本点字表記法」大活字
「視覚障害者が街を歩くとき」都市文化社

科目名	介護実習		
担当教員名	野島 靖子、新井 幸恵、中村 幸子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

実習 - 1

- ・高齢者介護に関わる在宅生活支援事業の概況を理解する。
- ・地域における在宅支援事業の役割と課題を理解する。

実習 - 2

- ・特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者施設等の入所施設の概況と利用者の生活について理解する。
- ・入所施設における基礎的な介護技術を学ぶ。

内容

実習 - 1 5日間

認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター等

実習 - 2 7日間

特別養護老人ホーム 老人保健施設 障害者支援施設等

評価

施設評価 50% 学習態度・記録評価 50%

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

吉田節子編「ワークで学ぶ介護実習」みらい

科目名	介護実習		
担当教員名	新井 幸恵、中村 幸子、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.講義、演習、他科目で学んだ知識や技術、 ・ 期介護実習の学びを総合的に生かして、 介護実習計画に基づき高齢者や障害者施設で行われる介護を体験的に学ぶ
- 2.尊厳ある介護を目指す視点から、個別利用者の心身状況や暮らしの多様性にそってアセスメント、介護計画、実施考察の過程を学ぶ。
- 3.夜勤実習プログラムに参加し、利用者支援を多角的に学ぶ。
- 4・訪問介護実習では、地域で行われる介護の実際と展開を学ぶ。
- 5.施設介護をめぐる社会的な状況・法制度の運用と実態、地域社会での役割を総合的に学ぶ。

内容

在宅実習3日間

施設実習4週間

評価

実習態度・記録評価 5 0 点 施設評価 5 0 点 6 0 点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

吉田節子他編「ワークで学ぶ介護実習」みらい

科目名	介護実習指導		
担当教員名	新井 幸恵、中村 幸子、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 利用者の自立(律)を支える介護実践の必要を、第3段階実習の学びから体得する。
2. 第1段階から第3段階までの介護実習(施設実習・在宅実習)を通じ、これまで学んできた知識、理論、技術、思考、態度を考察、自己課題を抽出する。
3. 介護過程の学習経過をケーススタディとしてまとめ、結果を実習報告会を企画、報告する。
4. これらを通じて介護福祉士としての専門性を深め、社会的役割, また介護福祉士としての自己成長を見つめ、残された課題を理解する。

内容

1. 実習前

1~2 段階実習での自己課題をみつめ、新たな実習課題を明確化する。

それぞれの実習課題に基づき、介護実習計画を作成する。実習前報告会を主体的に企画、とり行う。

2. 実習中

利用者は勿論、実習指導者等の指導助言を受け、介護実習計画に基づき、自己課題の達成を目指す。

巡回指導や帰校日で、学生同士の学び合いを尊重しつつ、教員の指導助言を受ける。

3. 実習後

全実習過程を考察、(とりわけ介護過程実施からの学びを大切に)介護福祉士としての自己覚知を深め、自己課題を明らかにする。また介護過程をケーススタディとしてまとめ、実習報告会で分かち合い考察を深める。

評価

出席50点、提出記録50点、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】吉田節子他編「ワークで学ぶ介護実習」みらい

【【推薦書】 「すぐに役立つ事例のまとめ方と発表のポイント」中央法規
介護福祉教育研究会編「楽しく学ぶ介護過程」kumi

科目名	家庭支援演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

高齢社会において、今後、一層ニーズが高まることが予想される訪問介護員についての知識と技術を習得することを目指す。

本科目は、訪問介護員2級研修修了者に対する単位認定科目である。

内容

訪問介護員2級研修の授業内容は次のとおりである。(130時間以上)

講義：「福祉理念とケアサービスの意義」「高齢者保健福祉の制度とサービス」「ホームヘルプサービスの概念と現状」「障害・疾病の理解」「住宅・福祉用具に関する知識」「生活援助の方法」など

演習：「基本介護技術1～8」「共感的理解と基本的態度の形成」「訪問介護計画の作成と記録」など

実習：「特別養護老人ホーム」「老人デイサービスセンター」「ホームヘルプサービス同行訪問」など3箇所

評価

「訪問介護員2級資格取得養成研修講座」の修了証書と所定の申請による単位認定を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は、講座開始時に紹介する。

科目名	医学一般		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[講義の目的・ねらい]

介護福祉の分野で必要な医学領域のうち、公衆衛生を含む社会医学面を理解する。

[講義全体の内容の概要]

講義中心

[講義修了時の達成課題 (到達目標)]

日本の介護医療・福祉の現状と問題点を整理して理解できること。

内容

[講義日程と各回のテーマ・内容]

1. 「生きている」ことの意味・医学・生物学の基礎知識
2. 人口静態と人口動態
3. 地域保健対策と健康増進対策 (1)
4. 地域保健対策と健康増進対策 (2)
5. 障害とリハビリテーション医療 (1)
6. 障害とリハビリテーション医療 (2)
7. 感染症の理解
8. 難病の理解
9. 精神保健医療の理解
10. 在宅医療と自己決定 (1)
11. 在宅医療と自己決定 (2)
12. 医療システムの現状 (1)
13. 医療システムの現状 (2)
14. 医事法制
15. 試験

評価

[単位認定の方法および基準]

試験60点 レポート20点 平常点20点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

介護福祉士養成講座 9巻 (医学一般) 中央法規

科目名	レクリエーション活動援助法		
担当教員名	杉浦 史晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護サービスの究極の目的は、援助の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することである。その中でレクリエーション援助(日常的な楽しさづくり)の果たす役割は大きい。この授業では、これからの社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、レクリエーション活動援助の基本的な方法と援助者の果たすべき役割について体験学習を織り交ぜながら追求する。

内容

- (1) 出会い、よりよく知り合うために：人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深めるレクリエーション・プログラムの実際を体験する。
 - (2) レクリエーションとは何か：レクリエーションのイメージの点検から始めて、レクリエーションという概念がなぜ生まれてきたか、現代社会でのレクリエーションの持つ積極的な意義を検討する。
 - (3) レクリエーションと社会福祉：社会福祉サービス、利用者と援助者のあり方を考え、その中でレクリエーションの援助が果たすべき役割、援助者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力を検討する。
 - (4) レクリエーション援助の計画づくり：レクリエーション援助は利用者のニーズを捉えるところから始まり、アセスメント-企画-実施-評価のプロセスを踏んで行われることが望まれる。その進め方を介護計画とのつながりや具体的な事例に即して検討する。
 - (5) 福祉現場のレクリエーションの現状と課題を考える。
 - (6) ケーススタディ：様々な施設、および障害形態別にレクリエーションの事例を取り上げ、それが持つ可能性、援助を行う上での問題点、利用者にふさわしいレクリエーションの素材研究を行う。
- 以上について、理論と実践を組み合わせながら進めていく。

評価

筆記・実技試験(40点)、毎時間ごとのふりかえり(30点)、授業態度(30点)を評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 藺田碩哉監修 『レクリエーションの援助』 共栄出版株式会社

【推薦書】 『第3版 レクリエーション活動援助法』 中央法規

科目名	基礎演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学では、自らが学び自らが求めるという自律的・自発的な学習が必要不可欠である。本授業では、大学における学生生活の基礎となる、その基本的学習の方法に関して学ぶ。少人数で担当教員とのコミュニケーションが密であることも本授業の特徴である。

内容

1. 学生としてのライフスタイルの確立及び学習の目標を獲得する。
 - ・大学、学部、学科、コースを理解する。大学組織の活用法を理解する。自分の個性・特徴を理解する。自己確立へ向けて目標を立てる。学習・生活の計画を立てる。
2. 情報の収集、整理、理解
 - ・ノートテイキング、文章読解の練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用等について学ぶ。
3. 情報の検討、分析、発信
 - ・意見(主張)の出し合いと練り上げ、討論・議論の練習、レポートの作成その発表等を行う。
4. グループワーク
 - ・共同での問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶ者としての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する。

評価

授業への出席と取組み(40点)、小レポート(30点)、期末課題(30点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

- ・学習技術研究会編著『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』くろしお出版
- ・田中共子編『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房

科目名	基礎演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学では、自らが学び自らが求めるという自律的・自発的な学習が必要不可欠である。本授業では、大学における学生生活の基礎となる、その基本的学習の方法に関して学ぶ。少人数で担当教員とのコミュニケーションが密であることも本授業の特徴である。

内容

1. 学生としてのライフスタイルの確立及び学習の目標を獲得する。
 - ・大学、学部、学科、コースを理解する。大学組織の活用法を理解する。自分の個性・特徴を理解する。自己確立へ向けて目標を立てる。学習・生活の計画を立てる。
2. 情報の収集、整理、理解
 - ・ノートテイキング、文章読解の練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用等について学ぶ。
3. 情報の検討、分析、発信
 - ・意見(主張)の出し合いと練り上げ、討論・議論の練習、レポートの作成その発表等を行う。
4. グループワーク
 - ・共同での問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶ者としての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する。

評価

授業への出席と取組み(40点)、小レポート(30点)、期末課題(30点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

- ・学習技術研究会編著『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』くろしお出版
- ・田中共子編『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房

科目名	基礎演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学では、自らが学び自らが求めるという自律的・自発的な学習が必要不可欠である。本授業では、大学における学生生活の基礎となる、その基本的学習の方法に関して学ぶ。少人数で担当教員とのコミュニケーションが密であることも本授業の特徴である。

内容

1. 学生としてのライフスタイルの確立及び学習の目標を獲得する。
 - ・大学、学部、学科、コースを理解する。大学組織の活用法を理解する。自分の個性・特徴を理解する。自己確立へ向けて目標を立てる。学習・生活の計画を立てる。
2. 情報の収集、整理、理解
 - ・ノートテイキング、文章読解の練習、大学図書館の利用方法、インターネットの活用等について学ぶ。
3. 情報の検討、分析、発信
 - ・意見(主張)の出し合いと練り上げ、討論・議論の練習、レポートの作成その発表等を行う。
4. グループワーク
 - ・共同での問題解決と体験学習を踏まえ、福祉を学ぶ者としての自覚と他者理解を深めるとともに、各自の目的意識を明確化する。

評価

授業への出席と取組み(40点)、小レポート(30点)、期末課題(30点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

- ・学習技術研究会編著『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』くろしお出版
- ・田中共子編『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房